

Annual report 2025

一般社団法人 inochi 未来プロジェクトについて

- 01 ー 一般社団法人 inochi 未来プロジェクト
- 02 ー inochi WAKAZO Project
- 03 ー inochi WAKAZO Forum 報告

inochi Gakusei Innovators' Program(i-GIP)

- 08 ー i-GIP KANSAI
 - 09 ー 教育プログラム報告
 - 11 ー アイデアシート
- 15 ー i-GIP KANTO
 - 16 ー 教育プログラム報告
 - 18 ー アイデアシート
- 20 ー i-GIP HOKURIKU
 - 21 ー 教育プログラム報告
 - 23 ー アイデアシート
- 26 ー i-GIP KYUSHU
 - 27 ー 教育プログラム報告
 - 29 ー アイデアシート
- 32 ー i-GIP SHIKOKU
 - 33 ー 教育プログラム報告
 - 35 ー アイデアシート

WKC/WAKAZO

- 38 ー WKC Forum
- 39 ー WAKAZO報告

決算・協賛後援一覧

一般社団法人inochi未来プロジェクト



みんなでinochiの大切さと未来について考え、行動するプロジェクト。

医療者、企業、行政そして市民と患者も。

関西・日本が、みんなで支え合いながら、健康で長生きできる街・国になることを目指します。

いのち輝く未来社会の実現を、皆様とともに。

一人でも多くの心臓病に苦しむ患者さんを救うために、日々医療の現場でいのちと向き合い、格闘して参りました。

その立場から今年の万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」について、フォーラムを開催させていただきます。

新型コロナウイルスの流行のような予測できない不確実な未来に向かって生きていくために必要なこと。

それはいのちを救い・つなぐ活動と、経済と社会の両立・循環する新しい価値感をみんなで考え、創り出すことだと考えます。

今回のご提案に少しでも興味を持っていただけた暁には、いのち輝く未来社会を実現するために、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



一般社団法人
inochi未来プロジェクト理事長/
大阪大学 名誉教授/
大阪けいさつ病院 院長

澤 芳樹

理事紹介



東京科学大学
理事・副学長

森尾 友宏



慶應義塾大学
整形外科学教室 教授

中村 雅也



順天堂大学大学院
医学研究科再生医学
主任教授

田中 里佳



東京大学 教授
慶應義塾大学 特任教授

鈴木 寛



京都大学 iPS細胞研究所
所長・教授

高橋 淳



慶應義塾大学 医学部
教授

宮田 祐章



Stanford Biodesign
Advisory Director

池野 文昭



株式会社ブルーオーシャン
代表取締役

福本 勝彦



大阪大学卒 医師
公衆衛生学修士(MPA)

寺本 将行



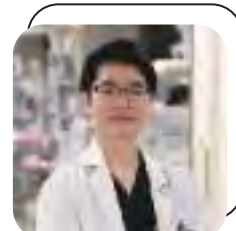
PhD Candidate
マウントサイナイ医科大学

川竹 絢子



PhD Student
ジョージワシントン大学

清元 佑紀



日本赤十字社和歌山
医療センター 医師

薬王 俊成

inochi WAKAZO Project

「若者の力でいのちを守る社会を創る」をミッションに医療系の学生を中心とした約100名の学生が活動する、次世代イノベーター集団です。

ヘルスケア課題の解決を中高生と行う「課題解決型」の inochi Gakusei Innovators' Program (i-GIP)、「いのち輝く未来社会」を目指し、互助の精神をもとに誰もがいのちを守りあう新たな未来社会をデザインする若者集団WAKAZOの両方の活動から、ミッションの実現を目指しています。

i-GIP

Mission 若者によるヘルスケア課題の解決と人材育成

特徴 約5カ月間にわたって2~4名から成る中高生のチームが医療・ヘルスケア課題解決のプランを創出・実行し、競い合うプログラム。このプログラムは、次世代のアントレプレナーを育成することで、これからの「いのちを守る未来社会」の実現を目指します。そのために、中高生チームが、大学生メンターと一緒に、全体の傾向からではなく、「その人」が持つヘルスケア課題に共感し、他者と共創することで、解決を目指します。



WAKAZO

Mission 誰もがいのちを守り合う、新たな未来を創造する

特徴 「誰もがいのちを守りあう新たな未来社会の創造」を目指す、全国の大学生を中心とするプロジェクト。本年は、大阪・関西万博にて催事企画「inochiのペイフワードweek」、展示企画「死をたずね、いのちを問う」を実施いたしました。現在はLASTWORDS(人生最期に遺したい言葉)を中心に展開しています。



2025年度メンバー構成

医学部メンバー 約50名



所属大学(一部抜粋)

昭和医科大学	徳島大学
北里大学	愛媛大学
国際医療福祉大学	福岡大学
東京医科大学	長崎大学
日本大学	大阪医科薬科大学
東京大学	東京科学大学
東北大学	大阪公立大学
信州大学	東京女子医科大学
金沢大学	横浜市立大学
富山大学	関西医科大学
京都府立医科大学	産業医科大学
滋賀医科大学	
岐阜大学	
川崎医科大学	

非医学部メンバー 約40名



所属大学(一部抜粋)

東北大学 農学部
金沢大学 融合学域 / 理工学域
石川県立看護大学 看護学部
京都大学 理学部 / 工学部
京都芸術大学
立命館大学 文学部 / 映像学部
東京科学大学 工学院 / 環境・社会理工学院
九州大学 工学部 / 共創学部
北九州市立大学 文学部
佐賀大学 農学部
大阪大学 工学部
同志社大学 商学部 / 文化情報学部
九州産業大学 商学部
関西医療大学 保健医療学部
福井大学 工学部

inochi WAKAZO Forum 2025

オープニング

概要

本年の inochi WAKAZO Project の集大成として、「気づき、支え、つなぎ、ダイアベティス(糖尿病)と向き合う力を育てる」をテーマとし、Nakanoshima Qross 2F「Qrossover Lounge 夢」にて、inochi WAKAZO Forum 2025 を12/21(日)開催しました。
オープニングでは協賛企業を代表して株式会社りそな銀行様の南和利様にご挨拶いただきました。

司会	平良 優	:立命館大学 文学部 2年 / FMおとくに ラジオパーソナリティー / 令和6年度 びわ湖大津観光大使
協賛企業挨拶	南 和利	:株式会社 りそな銀行 取締役副社長兼執行役員
開会挨拶	和田 馨	:i-GIP 2025 HOKURIKU PL / 金沢大学 医薬保健学域 薬学類 5年



中高生によるプレゼンテーション

概要

i-GIP 2025 KANSAI,KANTO,HOKURIKU.KYUSHU,SHIKOKU の各地域の活動を修了し、各地域のフォーラムで優勝したチームと追加登壇枠獲得戦で選抜された2チームの、計7チームが「ダイアベティス」への課題解決案をプレゼンテーションしました。

そのプレゼンテーションは、以下の審査員によって審査され、本年度の優勝チームを決定しました。
本年度の優勝チームはi-GIP 2025 KANSAI のコウノトリ米でした。

i-GIP/テーマ紹介	中村 萌々	:i-GIP 2025 KANSAI PL/京都府立医科大学 医学部 看護学科 2年
ファシリテーター	鈴木 寛	:東京大学 公共政策大学院 教授 / 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任教授 / 一般社団法人 inochi未来プロジェクト 理事

審査員の先生方

池野 文昭	Program Director (U.S) / Stanford Biodesign Advisory DirectorJapan Biodesign / 一般社団法人 inochi 未来プロジェクト 理事
川添 高志	ケアプロ株式会社 代表取締役
八木 雅和	大阪大学 大学院医学系研究科 保健学専攻 寄附講座准教授
津村 和夫	公益社団法人 日本糖尿病協会(JADEC) 業務執行理事

登壇チーム紹介



KANSAI 1位
deco



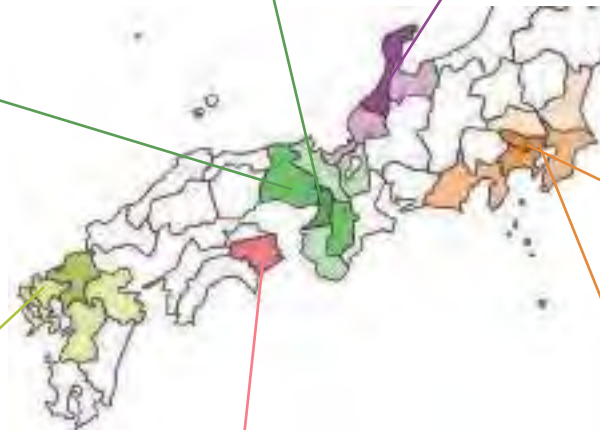
HOKURIKU 1位
しゅがーけん



追加登壇チーム
コウノトリ米



KYUSHU 1位
じくさすルート



KANTO 1位
ショコラ3姉妹



SHIKOKU 1位
いちごチャーハン



追加登壇チーム
ショートゲーマーズ



パネルディスカッション

概要

パネルディスカッションでは、inochi未来プロジェクト執行理事の清元佑紀をファシリテータとして迎え、理事の鈴木寛をパネリストに、i-GIP 2025 HOKURIKU 代表の和田馨、i-GIP 2025 SHIKOKU 代表の角優花とともに、今年度の活動を振り返りました。

ディスカッションでは、代表からの問いかけを軸に、一年間の取り組みを通して感じた課題や成果、組織運営における工夫や葛藤について意見を述べ、活発な意見交換が行われました。

ファシリテーター	清元 佑紀	: 医師 / ジョージワシントン大学 / inochi 未来プロジェクト 執行理事
パネリスト	鈴木 寛	: 東京大学 公共政策大学院 教授 / 慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任教授 / 一般社団法人inochi未来プロジェクト理事
パネリスト	和田 馨	: i-GIP 2025 HOKURIKU PL / 金沢大学医薬保健学域薬学類5年
パネリスト	角 優花	: i-GIP 2025 SHIKOKU PL / 徳島大学医学部医学科2年



クロージング

概要

クロージングでは一般社団法人inochi 未来プロジェクト理事長の澤芳樹よりご挨拶とi-GIP 2025 SHIKOKU 代表の角優花より閉会挨拶を行いました。今年一年のinochi WAKAZO Project の活動の総括と私たちが持つ思いを観客の皆さんと共有してinochi WAKAZO Forum 2025を締めくくりました。

ご挨拶	澤 芳樹	: 一般財団法人未来医療推進機構 理事長 / 大阪大学名誉教授 / 大阪けいさつ病院院長 / 一般社団法人inochi 未来プロジェクト理事長
閉会挨拶	角 優花	: i-GIP 2025 SHIKOKU 代表 / 徳島大学 医学部 医学科 2年

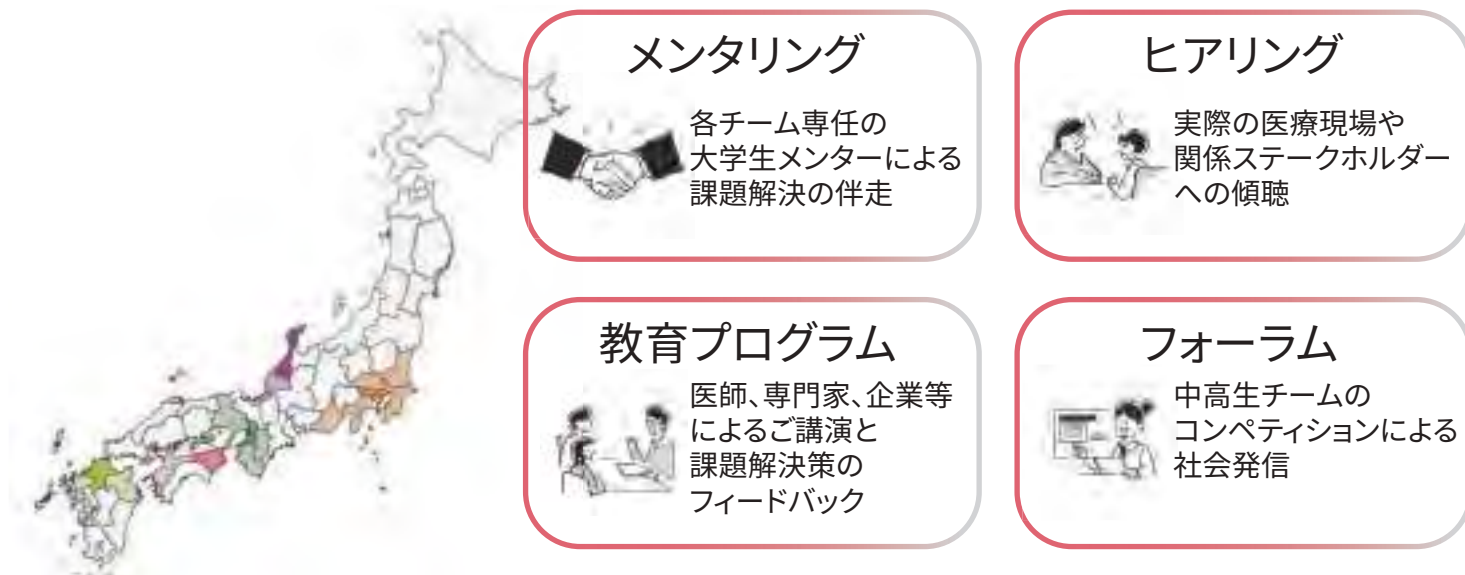


inochi Gakusei Innovators' Program(i-GIP)

inochi Gakusei Innovators' Program (略称:i-GIP)は、大学生と中高生が二人三脚でヘルスケア問題に取り組む課題解決型プログラムです。

中高生がチームを組み、各チームに専任の大学生メンターが伴走し、ヘルスケア課題の解決を目指します。本年は「ダイアベティス(糖尿病)」をテーマに、課題解決に取り組みました。

i-GIP の特徴



テーマ「気づき、支え、つなぎ、ダイアベティス(糖尿病)と向き合う力を育てる」

ダイアベティス(糖尿病)の定義

インスリン作用の不足に基づく慢性の高血糖状態を主徴とする代謝症候群

出典:厚生労働省「生活習慣病対策 各論:糖尿病」2020年版
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586592.pdf>)



初期症状

血糖値が高くなり、
体が水分を失う
↓
頻尿・口渇・多飲
疲れやすい

診断

健康診断や血液検査で血糖値の異常が判明。HbA1cや空腹時血糖値などで診断される

合併症リスク

血管障害が進行し、目・腎臓・神経などの臓器に影響。症状が進行しやすくなる

重症化

合併症が深刻化し、QOLが著しく低下。最悪の場合は命に関わる状態に至る

主な合併症

三大合併症： 

その他の合併症： 

糖尿病網膜症

網膜の細小血管が障害され、視力低下やかすみ、最悪の場合は失明に至る。放置すると7~10年で重症化することがある。

糖尿病腎症

糸球体の濾過機能が低下し、高血圧・尿蛋白・むくみなどを引き起こす。最終的に腎不全となり、人工透析の主要原因となる。

脳梗塞

高血糖による大血管の動脈硬で脳血管が詰まりやすくなり、手足の麻痺や言語障害を起こす。糖尿病患者では発症リスクが一般の2~3倍。

糖尿病神経障害

高血糖が続くと末梢・自律神経に障害が起こり、手足のしびれ・痛み、立ちくらみなどが生じる。足潰瘍や壊疽へ進行することもある。

壊疽

動脈硬化で下肢の血流が悪化し、間欠性跛行(歩行時のふくらはぎの痛み)→潰瘍・壊疽を招き、最終的に足切断に至るリスクがある。

解決策の4軸

i-GIP では、課題解決策を生み出すときの方向性として4つの軸を定め、それに基づいて課題を探し解決策を生み出していきます。



糖尿病に対するセルフケア力を高め、あらゆる状況に対応できる能力を高める



社会に潜む要因に取り組み、糖尿病予防に繋がる生活習慣を獲得する



自立度が下がった糖尿病患者の良好な血糖推移を目指す



糖尿病にまつわるスティグマを減らし生きづらさを感じさせない社会を目指す

PL挨拶

「1つでもいのちを救う」
これは私が1年間掲げていた目標です。

プログラムが始まった当初、ダイアベティスはどこか遠い存在で、「甘いものを食べ過ぎた結果」「生活習慣の問題」というようなステレオタイプを恥ずかしながら抱いていたことさえありました。しかし、リサーチや当事者・医療従事者へのヒアリングを重ねる中で、その認識は大きく覆されました。

ダイアベティスは自己責任という言葉だけで片付けられる病気ではなく、遺伝、環境、ストレス、社会構造などの多くの要因が複雑に関わって発症します。そして何より恐ろしいのは、気づかないうちに静かに、しかし確実に私たちの体を蝕んでいく点です。そして身体的負担以上に深刻なのが、社会に残る偏見や無理解であり、それが当事者を苦しめている現実でした。

ダイアベティスは今や誰にとっても身近な病気で、決して他人事ではありません。だからこそ求められるのは、正しい知識に加えて、当事者が抱える不安に想像を巡らせる姿勢です。思いやりを行動に変え、テクノロジーや新しい発想で、病気による制限を「不自由」ではなく「工夫の種」に変えていくこと——それこそが、私たち若い世代にできる力だと感じています。

この数か月の取り組みは単なる糖尿病対策ではなく、ダイアベティスというレンズを通して見つめた、私たちが望む「未来の社会のあり方」そのものです。私たちの描く未来の可能性を、どうぞ最後まで見届けてください。



京都府立医科大学
医学部看護学科2年
中村 萌々

参加校

総応募者数
162名

採択者数
52名

今年度採択者所属学校一覧

カネディアン・アカデミー 四天王寺高等学校 白陵高等学校・中学校
奈良学園登美ヶ丘中学校 清風南海高等学校
近畿大学附属豊岡高等学校 関西大倉高等学校 淳心学院高等学校

inochi KANSAI Forum 2025

i-GIP 2025 KANSAIにおける約4か月の活動の集大成として、「ダイアベティス(糖尿病)」をテーマに中高生14チームによるプレゼンテーションを行いました。
審査員(敬称略)



京都府立医科大学
大学院医学研究科
内分泌・代謝内科学
学内講師
岡田 博史



公益社団法人
日本糖尿病学会(JADEC)
業務執行理事
津村 和夫



水曜会(京都府立医科
大学病院 糖尿病患者会)
会長
滝田 進弘



株式会社電通
第7マーケティング局
シニア・ディレクター
其道 忠久

教育プログラム報告 (敬称略、肩書は登壇時)

Kick Off Meeting @大阪大学中之島センター

中高生と大学生が初めて顔を合わせ、今後の活動に向けて士気を高める機会となりました。澤先生からは活動を進める上での心構えについて、岡田先生からはダイアベティス(糖尿病)に関するご講演をいただき、活動やテーマへの理解を一層深める一日となりました。

ゲスト:澤 芳樹 一般社団法人 inochi未来プロジェクト理事長
大阪大学 大学院医学系研究科 名誉教授
大阪警察病院 院長

岡田 博史 京都府立医科大学 大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学 学内講師



Insight Day @大阪大学中之島センター

デザイン思考の理解を深めることを目的に、まず運営大学生が概要を説明し、続いて八木先生よりデザイン思考とバイオデザインに関するご講演をいただきました。その後、各チームがペアとなって糖尿病をテーマにディスカッションを行い、相互に学びを深めました。

ゲスト:八木 雅和 大阪大学 大学院医学系研究科 保健学専攻
未来医療学寄附講座 准教授
ジャパンバイオデザイン プログラムダイレクター



Mentoring Day @ライフサイエンスハブウエスト

各チームが意見を整理し、大学生メンターの助言を受けながら学びを深めました。その後、OB・OGによるメンタリングで課題設定やヒアリングの進め方などについて貴重なフィードバックを得ました。最後の全体発表では、中高生同士が新たな気づきや学びを共有し、互いの視点を広げ合いました。

Midterm Presentation @大阪大学中之島センター

14チームが発表を行い、審査員や中高生・大学生から質疑応答を受けました。初めての発表で緊張も見られましたが、互いの発表から多くの刺激を受け、意見を交わしながら課題や解決策をさらに磨きました。中高生にとって、自分たちのアイデアを進めるための重要な機会となりました。

ゲスト：岡田 博史 京都府立医科大学 大学院医学研究科内分泌・代謝内科学 学内講師



Prototyping Day @ライフサイエンスハブウエスト

プロトタイピングの理解を深めるため、東京科学大学の松元亮教授に「貼るだけ人工臓器」の開発経緯や仕組み、医工看連携についてご講義いただきました。その後、中高生はプロトタイプ作成に取り組み、グループ間で発表・意見交換を行い、解決策や今後の活動に反映させました。

ゲスト：松元 亮 東京科学大学 総合研究院
生体材料工学研究所/自律システム材料学研究センター 教授
東京大学 大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 特定客員教授

Pitch Day @大阪大学中之島センター

審査員から課題や解決策へのフィードバックを受ける機会となるとともに、inochi KANSAI Forumに向けたプレゼンの実践の場でもありました。発表後はプレゼン方法を学び、自分たちの発表内容を振り返りました。

ゲスト：西原 猛 一般社団法人 日本プレゼンテーション教育協会 代表理事

inochi KANSAI Forum @京都市リサーチパーク バズホール

i-GIP 2025 KANSAIにおける約4か月の活動の集大成として、「ダイアベティス(糖尿病)」をテーマに中高生14チームによるプレゼンテーションを行いました。



KANSAI アイデアシート



アイデア名	糖尿病に特化したキーホルダー
チーム名	Falcon
課題	1型糖尿病の方が、低血糖で倒れた時など緊急時に的確に症状を周りに伝えることができない
解決策	糖尿病に特化したヘルプマークのようなものを作成
調査実績	同じ学校の糖尿病を患う方から話を聞いた

学校名	メンバー
カナディアンアカデミー 石山怜和、浜中柚月	
アイデアの詳細	
1型糖尿病の方が低血糖になると、重度の場合意識障害などが起き、倒れてしまっても周りに何があったのか伝えることができない。だが、ヘルプマークに抵抗がある方も少なくはない。そこで、糖尿病に特化したマークを作成し、そこに症状や対処法などを書き込めるようにすることで、緊急時に喋れなくても何が起きているのか伝えることができる。	
『病気』だとアピールしてしまうような要素を少なくした。どちらかというと、キーホルダーのような感覚でつけられるように工夫してある。	
また、男女関係なく誰でも気軽につけられるように作っている。	

まもるん糖	
チーム名	バケツチキン
課題	低血糖時の糖分摂取が糖尿病を持っている方々の負担となって命の危険に晒される
解決策	低血糖時の糖分摂取の際に誤嚥しにくい形状の糖
調査実績	・ミーティング オプラートの企業様 京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学の先生 ・アンケート 内科・糖尿病クリニック様

学校名	メンバー
関西大倉高等学校 2年 中村 紗 松澤 心花 横山 尚央	
アイデアの詳細	
現在、低血糖の際の改善策は粉末やタブレット状のものしかない。岡田先生へのヒアリングにより、摂取の際に喉に詰ませ、窒息してしまったり、むせてしまったりすることが問題になっていることがわかった。	
糖尿病の方の三大死因の第二位に感染症が入っており、その中で最も多くの割合を占めるのが肺炎であるとわかった。その肺炎は必ずしも人からもらうものではなく、自分自身が原因で起こしてしまう一番の原因が誤嚥性肺炎であり、誤嚥性肺炎は嚥下機能が低下すると起こりやすくなる。その嚥下機能の低下は筋力の低下によって起こる。低血糖の症状の一つとして筋力の低下があり、このことから低血糖状態の時は誤嚥性肺炎になりやすいとわかった。	
そこで誤嚥のリスクを減らす方法を調べた際にとろみをつけるという文献を目にし、手軽で溶けやすいオプラートに着目した。	

アイデア名	ぱっとみん
チーム名	ラムネスムービー
課題	糖尿病を持つ小学生が低血糖時に学校で周りの目を気にして補食を取りづらい
解決策	ぶどう糖のパッケージを紙葉袋に似た外観にすることで、糖尿病を持つ子供が周囲の友達のことを気にせず補食を取ることができるアイテムである。
調査実績	大阪杉の子会の小学生16人にアンケートを実施。糖尿病内科医師にインタビュー、小児科専門医兼糖尿病専門医にインタビュー、大阪杉の子会会長にインタビュー

学校名	メンバー
四天王寺高等学校 1年 岩谷有紗 戸田さら 中谷愛貴 中野愛美	
アイデアの詳細	
ぱっとみん 糖尿病を持つ子供たちが補食として食べるぶどう糖のパッケージを紙葉袋に似た外観にし、糖尿病についての情報を子供たちが分かりやすいように記載する。そしてPTPシートに入れたぶどう糖をスナップボタンで「ぱっとみん」に取り付ける。	
解決策の利点 ・紙葉袋に似た外観にすることで、体調に合わせて必要なものを摂取していることを周囲の人に理解してもらいやすい。補食の際にいろいろ質問されたりお菓子を食べていると誤解されにくくなる。 ・ぶどう糖を入れたPTPシートを付け替えられるようにすることでぱっとみんを繰り返し使える。 ・本型にすることで糖尿病に関するより多くの情報を記載し、周囲の理解が得られやすくなり本人が毎回説明する手間が省ける。 ・子供が親しみやすい4コマ漫画で糖尿病を持つ子供にとって過ごしやすい世界を表現。 ・「はひふへ補食」という言葉でクラスメイトに低血糖の症状を知ってもらい糖尿病を持つ子供が体調不良時に友達に声かけしてもらって補食しやすくなる。 新規性 市販のブドウ糖は集中力向上などを目的とする人をターゲットにしており、お菓子として販売されている。しかし、「ぱっとみん」は外見が薬のように見える。また周囲の子供の糖尿病への理解が深まるような情報提供ができる。	

飲む幸せを、あきらめない ～“甘い”を、変える。 未来のコーヒー開発プロジェクト～	
チーム名	あみだーず63
課題	2型糖尿病の方の飲み物によるカロリー・糖質摂取が多い
解決策	「CHEERS」 上げない努力、上がる気分 ～2型糖尿病の方が気兼ねなく楽しめる、低糖質・低カロリーの甘いコーヒー開発～
調査実績	・SARAYA株式会社様 (ヒアリング・ミーティング) ・京都府立医科大学 糖尿病・内分泌・代謝 内科学 客員講師 畑真之介先生 (ヒアリング) ・京都府立医科大学 糖尿病・内分泌・代謝 内科学 客員講師 畑真之介先生の患者様 (インタビュー・試飲) ・熊本大学大学院生命科学研究部(ヒアリング) ・神戸元町駅前クリニック (ヒアリング・インタビュー) ・大阪糖尿病協会(インタビュー)

学校名	メンバー
白陵高等学校 1年 織田暖子 中野由柳 松田尚	
アイデアの詳細	
2型糖尿病患者の方が気兼ねなく楽しめる、低糖質・低カロリーの甘いコーヒーの開発を行っています。	
<p><ターゲット層> 2型糖尿病をお持ちの20～50代の社会人</p> <p><内容量 600ml> 水 333.3g UCC アイスコーヒー希釈タイプ 111.1g アーモンド効果 砂糖不使用 111.1g ラカントSシロップ 29.6g ラカントアルロースブレンド 14.8g</p> <p><カロリー・糖質(600ml)> カロリー 46.3kcal 糖質 0.48g ※血糖値に関わる糖質</p> <p><既製品との差別化ポイント> ・血糖値に影響する糖質がほぼゼロ ・既製品と比べてカロリー74%ほどオフ ・カフェインによる脂肪燃焼効果 ・ペットボトルでの販売を想定→購入後すぐ飲める</p>	
<p>(社会人がオフィスでコーヒーを飲む割合×(2型糖尿病患者をお持ちの20～50代の社会人)=211万人！) 「CHEERS」の開発・販売は211万人もの人にハッピーをもたらすことができる</p> <p><開発する上での思い> 私達は「甘いのに低カロリー・低糖質」血糖値が上がらない”そんな「CHEERS」が数年後スーパーやコンビニの店頭にならび、ターゲット層である2型糖尿病患者をお持ちの社会人の方はもちろん、すべての方に手に取っていただき、ハッピーを広げられる、そんな未来を目指しています。</p>	

アイデア名	学校名 メンバー
糖尿病友の会「T I D」 E	奈良学園登美ヶ丘中学校3年 奥田泰暉 増田晴世 鬼塚結 森裕理
チーム名 摩擦のない斜面	
課題	アイデアの詳細
1型糖尿病患者をもつ中学生が、友の会に参加しにくい、同じ立場の間とつながる機会が少なく、孤独を感じやすい状況にある。	中高生が作る中高生のための中高生だけのダイアベティス友の会 T I D E 【対象者】 1型糖尿病患者を持つ中学生 【目的】 孤独を抱える中高生が、同じ立場の間とつながり、互いに支え合いながら安心して自分らしく過ごせる居場所をつくる。 【活動内容】 ① オンライン活動(1ヶ月に1回) - 日常の悩みや工夫を共有 ② 対面活動(2か月に1回) - 食事・ゲーム・趣味などを通じた交流 【連携とサポート】 医療指導者: 神内謙至先生 / かみうち内科クリニック 田中 薫先生 / かおる小児科 協力体制: 日本糖尿病協会と連携し、運営面で助言・サポートを受ける予定。 【その他活動】 ・インスタグラムを活用し「T I D」Eについての発信、1型糖尿病患者の解説動画などを投稿している。 ・病院や学校などにポスターを掲示してもらい、T I Dの活動を広める。 ・クラウドファンディングやグッズの売り上げで活動資金を賄う予定。 ・今後もS Nやポスター掲示による広報活動を続けていく。
解決策	
T I D「潮の流れ」という意味) - Teen Inspiring Diabetes 中高生がつくる中高生のためのダイアベティス友の会 仲間とともに壁に立ち向かい、発奮力と行動力で新しい流れを生み出す存在を目指す。	
調査実績	
○アンケート調査 ・かみうち内科クリニック ・近畿大学病院 ・大阪けいせき病院 ・松下医院 ・つるはしクリニック ・カオリ内科・糖尿病クリニック ○ポスター掲示 ・大阪夕陽丘中学校 ・大阪女学院高等学校 ・奈良県立国際中学校・高等学校 ・奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	

アイデア名	学校名 メンバー
Quiz! Diabetes	清風南海高等学校 1年 岩井香七美 岩崎煌汰 岡垣よりこ 掛水悠良
チーム名 d e c o	
課題	アイデアの詳細
知識不足の人が、糖尿病に対するスティグマを持っている。	糖尿病のある方に対してスティグマを持ってしまふのは小学校や中学校で糖尿病についてしっかりと学ばないからではないかと思いい、「正しい知識を楽しく学べるように」と、この解決策に至った。 そして考え出したのが、カードで糖尿病や健康リテラシーについて楽しく学ぶアクティブラーニングゲームである、 “ Quiz! Diabetes ” B O E M Y I N S D C I E N C S O C I A L の要素をテーマにしたカードを使ってプレイヤー同士が糖尿病や健康に関する様々なクイズを出し合って知識を深めていく。 プロトタイプングで実証実験を行ったところ、グループで楽しんでいる様子や、話し合っていて考えている様子が見られた。
解決策	
正しい知識を身に付ける ことで糖尿病のスティグマをなくすカードゲームを開発する。	
調査実績	
京都府立医科大学附属病棟の糖尿病患者をもつ患者さん2名にヒアリング 若者への心配や、糖尿病に対する意識の低さに関する声があった。 B l o o m i n g の ト E W A P に開催されたシリアスゲーム開発ワークショップに参加 カードゲームを作る際の大事な点や、どうすれば伝えたいことを伝えられるかを学んだ。 清風南海高等学校で実証実験	

アイデア名	学校名 メンバー
糖尿病予防アプリ A L I U S U - M	淳心学院高校 1年 佐藤雅哉 名古屋優太 武田晃誠 中山凜之助
チーム名 幽霊船	
課題	アイデアの詳細
糖尿病や、予備軍に該当するけれども自覚症状がない方々や、治療を受けようとしないうちが、病院で診断を受けずに治療が出来ず、糖尿病が進行してしまします。	病院に行かない2型糖尿病予備軍を対象に病院に行かせるように促すことを目指すアプリです。 ユーザーが健康情報を設定し、日常的にアプリに様々な情報を入力することで、その内容からアプリが糖尿病の推定の危険度を計測します。その計測のデータをもとにユーザーが病院に行く必要があるのか。また、「この状態を放置した場合に予測される今後の症状」のデータも示します。 病院に行く必要があるユーザーには近くの病院や糖尿病相談の情報を知らせたり、アプリ内から糖尿病関連のサービスを知らせて糖尿病治療に関わるハードルを下げるように働きかけます。 そしてこれらの計測のデータや身体的情報、B M また搭載しているA チャットのストレスチェックといった全てのデータによって自分だけのペットをアプリ内で作成します。
解決策	
日々の健康チェックからその人が糖尿病の診断を受けるべきか判断し、必要な受診を促すアプリを制作し、日々の生活から 予防、早期発見 を目指します。	
調査実績	
[株式会社ソフトウェア・サービス] チームで思案したアプリの実装の協力をお願いし、まだ100で実装は難しいですが、大まかなデータ入力や危険値を示すことはできるものを作成できました。	

アイデア名	学校名 メンバー
ブルーリンクプロジェクト	近畿大学附属豊岡高等学校2年 今井 心美 上田紗也夏 奥田 花恋 田川 朱希
チーム名 コウノトリ米	
課題	アイデアの詳細
1型糖尿病の認知度が低いことによる、1型糖尿病を持つ方に対する理解度の低さ →普通に1型糖尿病について周知しようとしても、 当事者意識が低い ため興味を持たれない	・1型糖尿病を持つ人が、1型糖尿病を詳しく知らない人から偏見を受ける現状を踏まえ、普段深く関わりのない人知ってもらう きっかけ作り ・実体験を元にしたストーリーが裏面に印刷された折り紙を、大倉印刷様のご協力のもと作成 ・イベントで声をかけていただいたり、思いに共感していただき、 地元、豊岡市を中心に合計1 箇所の企業、お店に折り紙等を設置 ・ ストーリーを見て、折り紙を折ってもらいメッセージを書いて もらったものを回収、糖尿病のシンボルマークである ブルーサークル を作る ・折り紙の周辺に1型糖尿病を持つ方へ向けたメッセージをインスタグラム、各設置場所等で募集し書く ・インスタグラムやメールで今までお話を聞かせていただいた当事者の方々に 成果報告 ・世界糖尿病デーに開催されるイベントなど、関西圏外でも設置させていただく予定
解決策	
子供を中心に全世代の人の興味を引き、設置が安易な 折り紙 を利用 1型糖尿病を持つ方の実体験をもとにした ストーリー 詳しく知ってもらうための サイト、インスタグラム	
調査実績	
・豊岡市市長と対談 ・当事者団体へのヒアリング ・フォーラム、インスタグラムでのアンケート(当事者) ・当事者のイベントに参加 ・1型糖尿病への簡易理解度調査(第三者)	

KANSAI アイデアシート



学校名		メンバー	
清風南海高等学校 1年 井野美咲 井上優希 近藤百音 布市美晴			
もしもインスリン			
チーム名		A b e e s	
課題			
1型糖尿病の方が災害前にかかりつけ医から災害時に必要な情報を伝えられていない			
アイデアの詳細			
<p>「もしもインスリン」とは</p> <p>災害時のインスリンの取得方法をピックアップして載せた、携帯できるサイズに折りたたんだマニュアル。</p> <p>「もしもインスリン」の目的</p> <p>南海トラフ巨大地震や異常気象など災害を意識されるようになっていく今日、インスリンがないと命に関わる場合のある1型糖尿病の方にとって災害前には不可欠。しかし、災害に関する知識が十分でない方、全く知らない方が多いことが現状だ。その一因として、1型糖尿病の方が必ず訪れる病院で、指導する時間がないなどの理由で医療機関から災害時の情報を伝えられていないことがあげられる。さらに、医療従事者に教えてほしいこととして、インスリンの取得方法について知りたいという意見が多かった。そのため、病院で完結し、災害時にインスリンを取得するために大切なことだけを知らせることができるシステムが求められる。</p> <p>「もしもインスリン」の利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場で「A D M L G N」にアカウントに登録してもらい、さらにそれを携帯することができるため、患者さんに情報を持っていてもらいだけでなく、災害が起きたときに実際に使ってもらえる。 ・医療従事者に代わって、1型糖尿病の方のニーズに特化した情報を伝えることができる ・通院時だけで完結する。 <p>期待できる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時について知識がない1型糖尿病の方にインスリンの取得方法を知ってもらえる。 ・災害が起こる前に知識を入れることで、わからない点などを事前に医療従事者に聞くことができる 			
解決策			
1型糖尿病の方に災害対策などについて指導する時間のない医師に代わって、私たちが災害時に特に重要であるインスリンの取得方法をまとめた蛇腹リーフレット「もしもインスリン」を作成。1型糖尿病の方の災害対策が病院内で完結するように受付でリーフレットを受け取り、診察の待ち時間で蛇腹リーフレットを読んでもらう。リーフレットによりインスリンをもらうにはお薬手帳の重要性を理解してもらい、さらに、その場でJADECのLINE公式アカウントに登録してもらい、それ以後の日常生活でもインスリンに記載されている、災害時にインスリンを処方してもらうためにいるお薬手帳と、「もしもインスリン」を財布などに入れて携帯してもらい、さらに、継続してインスリンの取得方法についての災害を急識する機会を与える解決策になる。			
調査実績			
<p>数名の医師や薬剤師の方にヒアリングを実施し、災害を乗り切るために必要な情報、1型糖尿病の方の災害時に関する知識が不足していることが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立医科大学付属病院 1型糖尿病の方 <p>マニュアルを配っている病院と配っていない病院があるというお話を伺い、情報の格差があることが分かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立医科大学付属病院 1型糖尿病の方 <p>マニュアルを配っている病院と配っていない病院があるというお話を伺い、情報の格差があることが分かった。</p>			

学校名		メンバー	
関西大倉高等学校 1年 伊藤碧 岸脇和楽 島村美宙 頼木あえ			
アイデア名			
タイムスリム・ケルビン			
チーム名		アマカ	
課題			
近年痩せ型の若年女性に耐糖能異常を発症する人が増えているのがわかってきた。日本人は痩せていることがいとされる風潮から、先進国の中では特に痩せの割合が高い。一方、痩せと糖尿病の関係性について知らない人が多いことが問題である。			
解決策			
<p>痩せていることの危険性を伝えるため、漫画で啓発を行うと考えた。啓発漫画「タイムスリム・ケルビン」を作り、インスタグラム、Xにて情報を発信する。</p>			
調査実績			
<p>関西大倉高校で女子高校生と女性の20代~30代の教師にアンケートを取ると、11名の解答が得られた。質問内容は、「今痩せていると思うか」「痩せたいか」「痩せていることは良いことだと思うか」などである。</p> <p>また、順天堂大学の田村好史先生へのヒアリングにて、若年女性の糖尿病のメカニズムや糖尿病に関連する日本の現状としてF U S (F e m a l e U n d e r w e i g h t / U n d e r n u t r i t i o n S y n d r o m e) 病名の情報等が得られた。</p>			
アイデアの詳細			
<p>「タイムスリム・ケルビン」概要</p> <p>(あらすじ)</p> <p>未来からやってきたケルビンは、高校生のサクラの家に居候することになる。その生活の中で、家庭や学校での日常に潜む過度な痩せ願望や痩せ型の若年女性を持つ糖尿病についてサクラや彼女の妹モモと共に理解し、身近な体への悪影響の存在を知っていく。</p> <p>一話から三話まで考えた。以下は発信する予定の話題である。</p> <p>一話 若年女性の糖尿病 おおまかに課題・解決策に書いたことについて触れる。</p> <p>二話 糖尿病の怖さ 糖尿病の三大合併症などについて触れつつ、糖尿病の恐ろしさを述べる。</p> <p>三話 妊娠型糖尿病 若年時に女性が痩せていると、妊娠型糖尿を発症しやすいとの報告がある。</p>			

学校名		メンバー	
関西大倉高等学校 1年 上田詩乃 田中響華 関根優聖			
アイデア名			
血糖値リストバンド			
チーム名		ゆうやけ	
課題			
小学生やその年代以下の子供は自分で血糖値管理をすることが難しい。血糖値の真実がいつからかわからない。血糖値の異常が他人から伝わりにくい。			
解決策			
血糖値の高さを光るリストバンドの機能アプリとの連携			
調査実績			
<p>【京都市立京師の丘学園の保健室の先生へヒアリング】</p> <p>私たちのアイデアについて、血糖値の異常が昔でわかる装置はあるが、音がみんなの周りで鳴るのが嫌な人もいます。色で血糖値がわかるのは良い。装置はあると思う。</p>			
アイデアの詳細			
<p>現状、元で血糖値推移が分かる装置はまだ開発されていない。</p> <p>血糖値が規定より高い→赤 規定より低い→青 高すぎる、また低すぎるとき(400~500以上、30~40以下) →アラームが鳴る</p> <p>アプリとも連携 血糖値が高いとき→アプリ補食の許容(血糖値40の時はラムネ1個与える。など)を保護者に書いてもらおうことで学校の教員なども理解しやすい。</p> <p>血糖値を測定できる時計などはすでに存在している。しかし、血糖値の緊急アラームは病院でしかなく音も聞き取れない。そのことでつけにくさを感じる人もいます。また、スマホを替えたくない小学生より年齢が高い人は血糖値推移を見ることができない。</p>			

学校名		メンバー	
四天王寺高等学校 2年 森松真子 山北紗也 山口奈緒子			
アイデア名			
"気付き"で守る健康			
チーム名		うつぶ物語	
課題			
糖尿病を持つ高齢者が食事の知識を十分に得られていない。			
解決策			
<p>病院の待合室に、作成したポスター・リーフレットを設置する。</p>			
調査実績			
<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士 2名 患者の食事に関する知識の不足、栄養指導を断る人が多いことを知る。 ・2型糖尿病を持つ女性 ・糖尿病専門医 1名 栄養指導への誤解があることを知る。 			
アイデアの詳細			
<p>インターネットが普及した現代においても、食事に関する知識を十分に有していない高齢者が一定数存在する。</p> <p>高齢者が知識を得る方法として現実的なものは、</p> <p>①管理栄養士による栄養指導 ②食事に関するポスター、リーフレットの二つだと考えた。</p> <p>この二つを叶えるポスターを作成し、クリニックの待合室に設置した。</p> <p>効果については、管理栄養士のもとに来た患者の増加数、リーフレットの減少数によって確認する予定である。</p> <p>新規性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病をもつ人向けの栄養指導推奨ポスターは一般的ではない。 ・病院等に設置される他のポスター以上にキャッチーである。 			

アイデア名

マウスリッパ

チーム名 ロゼット

課題

在宅ワークの増加により、長時間座りっぱなしで過ごす人が増えている。
特に5 伏前後で糖尿病を持つ方の人数は急激に増えており、運動の必要性を理解していても「時間が無い」「続かない」という課題を抱えており、運動不足が病状悪化の一因となっている。
通勤や移動が減った現代の生活スタイルでは、「意識して運動する」だけでは限界がある。
そのため、仕事をしながら自然に運動できる仕組みが求められている。

解決策

在宅ワーク中でも意識せずに体を動かすことができる方法として、「マウスリッパ」を考案。このアイデアは、座りっぱなしによる運動不足を改善し、血流を促進することを目的としている。パソコン操作の中に自然と足の動きを取り入れることで、日常の中で無理なく運動を継続できるように設計。意識して運動するのではなく、「仕事をしながら健康を維持する」という新しい発想から生まれた解決策。

調査実績

・糖尿病を持つ方へのオンラインヒアリングを実施
→「運動が大切なのはわかっているが続かない」「楽しくないと続けられない」との声が多数。
・医師からも、「運動量を増やすだけでなく、日常の中で動く意識を持つことが重要」との助言を得た。
・在宅ワーカーの生活リズムを分析し、1日の座位時間が平均9時間を超えることを確認。
・運動不足の要因は「環境」にあると考え、行動変容を促す仕組みの必要性を導いた。
・白陵中学校の先生方へアンケートを実施し、使用感や改善点についての意見を得た。

学校名 メンバー

白陵中学校 3年
寺西若奈 上野夏生
岡平純花 亀崎袖衣

アイデアの詳細

マウスリッパとは
パソコン操作に必要な「マウス機能」をリッパに組み込み、足でカーソル操作を行うことで、作業をしながら自然に足を動かすことができる。

仕組み

・右足:カーソル移動機能
・左足:スクロール機能
・両足のかかと部分にそれぞれクリックボタンを搭載(左クリック・右クリック)
・かかと部分が少し斜めに傾いた構造で、踏み込むことでクリックが可能
・ワイヤレス接続により、通常のマウスと同様にP 操作が可能

・足首やふくらはぎを自然に使う動作が必要となるため、仕事をしながらの軽い運動が実現できる。

期待できる効果

・長時間座りっぱなしによる血流の滞りを防止
・ふくらはぎの筋ポンプ作用を促進し、むくみや冷えを軽減
・意識せずに運動を習慣化できる「ながら健康サポート」
・運動への心理的ハードルを下げ、行動変容のきっかけをつくる

差別化ポイント

・運動器具ではなく、在宅環境を健康的に変える「デザイン」提案
・「効果」よりも「継続」を重視。
・既存の健康グッズが「運動の時間を確保する」発想なのに対し、マウスリッパは「運動を生活に埋め込む」発想である。
・京都試作ネット様と連携し、実際のプロトタイプ制作

アイデア名

まんぶく米

チーム名 ぺろぺろきゃんでいー

課題

糖尿病の方は、**ご飯の量を制限**することで食事に対して満足感を得ることができず、**食事療法を継続することができない**。

解決策

・低カロリー・低糖質で**“本物のご飯”**のように美味しい**「まんぶく米」**の発案

調査実績

・株式会社藤清
米を一切入れないこんにやく米通称**「まんぶく米」**を共に開発中
・神戸市農水産課
まんぶく米を来年度を目処に**WELL AVE ぬい坊** 出店予定

学校名 メンバー

淳心学院高等学校 1年
川崎陽太 大塚弘翔
末廣悠太郎 合田希空

アイデアの詳細

食事療法の問題点として糖尿病の方の3人に1人が**「ご飯の量を制限されること」**に不満を感じています。食事療法の継続が難しい最大の理由は、「我慢」を強いられることです。そのため、僕たちは、この**我慢を満足**に変えるために、こんにやく米をベースとしたカロリーが大幅に抑えられご飯のような**「まんぶく米」**を提案します。しかし、従来のこんにやく米には**2つ**の課題があります。

1つ目は、味や風味がご飯と異なり満足感が得にくいことです。そこで、僕たちは本物のご飯のように美味しく食べられる**「まんぶく米」**を開発しています。

2つ目は、知名度が**低い**ことです。日本の**健康志向**が高まる一方で、こんにやく米の**知名度**は低いため食べる人も限定的です。そこで、僕たちは**WELL AVE ぬい坊** 環境 K O B E や健康に配慮した市場で**まんぶく米**を出店し、知名度向上を目指します。結論**「まんぶく米」**はほぼこんにやくのため、低カロリーで満足感も**抜群**です。

“我慢する食事”から**“楽しむ食事”**へ——『**まんぶく米**』が新しい食の**幸せ**を届けます。

PL挨拶

“何のためにi-GIPに参加しているのか？”

これは私が日々PLとして活動する中で何度も何度も考えている問いです。お金の出ない活動ではなく、バイトしたほうが自分のためになるのではと言われたこともあります。

それでも、私は救えるはずのいのち、現代の医療ではこぼれ落ちてしまういのちに向き合い続けることが欠かせないと考えます。

若者がこれから社会で活躍していく中で、私は「自分で考え、実行できる力」を身につけることが不可欠だと考えています。

現代は情報に溢れ、自らそれらを吟味・取捨選択しなければすぐ誤った方向に足を向けてしまう可能性があります。正しい選択をするには自ら真実追求しようと行動にできること、さらにはそれにより得られたことを発信し、周囲の人を巻き込んでいける力が必要で、これはどのような道に進んだとしても大きな武器となるはずで

す。i-GIPに参加した経験が、現時点で医療に興味がある・無いにかかわらずそのような力を身につけるきっかけとなってほしいという思いのもと、今年度は教育プログラムの設計を行ってまいりました。テーマに対するリサーチ、ヒアリングを経て課題を見つけ、解決策を熟考し実装に移すという経験を学生のうちからすることは大きな意義のあることだと考えております。その過程において当事者の話を聞き、自分には何ができるか考えることは、異なる立場の人を理解し寄り添うことのできる力である「共感力」となるはずで

す。これからの時代を担う若者から湧き上がる情熱は無限大だと信じております。たった1人だとしても、尊いいのちを救う社会への、小さくも確かな一歩となるようこれからも取り組んでまいります。



昭和医科大学
医学部2年
棚町 友香

参加校

総応募者数
79人

採択者数
27人

今年度採択者所属学校一覧

鷗友学園女子中学校	吉祥女子高等学校
千代田高等学校	東京都立日比谷高等学校
東洋英和女学院高等部	広尾学園高等学校
大宮国際中等教育学校	不二聖心女子学院高等学校

i-GIP KANTO Forum 2025

約5か月間の集大成。教育プログラム・メンタリング・ヒアリングを経て、見つけた真の課題と当事者に真摯に向き合いました。その軌跡と到達点を発表し、大きな学びへと繋げることができました。

審査員(敬称略)

講演者(敬称略)



東京医科大学
茨城医療センター
糖尿病・内分泌内科長
教授

高本 偉碩



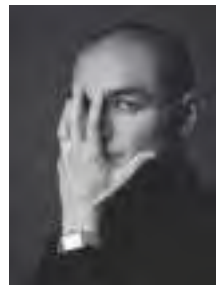
コピーライター/
プロダクトデザイナー/
技術者

高橋 良爾



大阪大学大学院 工学
研究科 ビジネスエンジ
ニアリング専攻/
産学官共創講座 准教授

難波 美帆



株式会社Pg代表取締役
株式会社イーエクス
メディア取締役

川名 紀義



昭和医科大学 医学部
医学教育学講座
客員教授
TMG緩和医療特別顧問

高宮 有介



国際医療福祉大学 教授
医学教育統括センター長

赤津 晴子

教育プログラム報告 (敬称略、肩書は登壇時)

Kick Off Meeting @日本橋ライフサイエンスハブ

午前は学外の活動に積極的に取り組み現在も事業を続けられている方々のご講演を聞き、学生が課外活動に取り組む意義を再確認しました。午後は顔合わせを行い、全員でこれからの活動に向けて士気を高めました。

ゲスト:

中原 楊 株式会社 Pleap 共同代表取締役

渡邊 博文

オオサカポテト代表



ダイアベティスについて学ぶ日 @東京科学大学M&Dタワー

今年度のテーマである糖尿病について、さらに課題解決の具体的なプロセスについてアドバイザーの先生からご講演頂きました。午後はブレインストーミングを通じて糖尿病の中でもどの問題に興味があるか考えました。

ゲスト:

鈴木 亮 東京医科大学病院 副院長 / 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授

佐々 牧雄 関東学院大学 人間共生学部 教授 / 体験デザイン研究所 研究所長



ヒアリングDay @日本橋ライフサイエンスビルディング

医療者の方へのヒアリングを通して、現場で感じる困りごとや支援の実際を学びました。その後、得られた気づきをもとにチームごとに課題を再検討し、今後の活動につなげました。

ゲスト:

渡邊 晶 公益社団法人 生命科学振興会 理事長



Mentoring Day @東京科学大学M&Dタワー

各チームがそれぞれピッチを行い、審査員の方たちにアドバイスを頂きました。それをもとにグループごとに話し合い、他のグループと共有することでダイアベティスの課題解決への理解を深めました。

ゲスト:

糟谷 明範 株式会社 シンクハピネス 代表・理学療法士
鈴木 亮 東京医科大学病院 副院長 / 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授
吉田 堯史 東京科学大学 環境・社会理工学院 博士後期課程



Sharing Day @オンライン開催

約2ヶ月間のリサーチから導いた課題・解決策のプレゼンを行い、i-GIP OBOGの大学生の方々からフィードバックを頂きました。問題点からさらに課題の深掘りができているか重点的に振り返る機会となりました。

Pitch Day @日本橋ライフサイエンスハブ

修了生によるパネルディスカッションと、審査員によるランチョンセミナー、そして中間発表ピッチを行いました。ピッチ後には、審査員から個別にアドバイスをもらえる機会も用意しました

ゲスト:

山内 崇寛 歯科医師
元廣 惇 株式会社Canvas、株式会社Weave 代表取締役
宮塚 健 北里大学 医学部 内分泌内科 主任教授
野田 光彦 国際医療福祉大学 病院教授

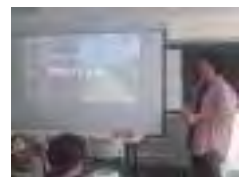


Presentation Day @品川ステーションビル

午前にはプレゼンゲームを通じて相手に自らの考えをインパクトのある方法で伝える手法を考えました。午後は中高生同士でプレゼンを評価し合い、最終発表に向けて内容のブラッシュアップを行いました。

ゲスト:

高橋 良爾 コピーライター、プロダクトデザイナー



inochi KANTO Forum 2025

@日本橋ライフサイエンスビルディング

アイデア名	学校名	メンバー
アシエソックス	横浜学園女子中学校2年	吉田結 東洋英和女子院高等部1年 山本定智 有京聖立日比谷宮高等学校3年 井井詩乃
チーム名	HANAZONO	
課題	<p>足痛症は血流や神経の障害による糖尿病の合併症の一つ。重症化すると下肢切断を迫られ、日本では毎年一万人が足を失っている。足の健康を失うことは、身体的な問題にとどまらず、職業の継続や生活の質にも深く影響する。</p>	
解決策	<p>課題の解決に向けて、毎日フットケアができる仕組みづくりが必要である。フットケアの最も基本である足を観察するための仕組みづくりに取り組む。具体的には足のチェックポイントがわかるもので毎日履いてもらえる靴下を作成する。</p>	
調査実績	<ul style="list-style-type: none"> おおくほ総合内科クリニック 泰山記念病院 下北沢病院 伊弉中央病院 順天堂大学 横浜市内科クリニック 富士 足・心臓血管科クリニック 株式会社セカンドハート 	
アイデアの詳細	<p>「アシエソックス」は、足をまもる、足をみまもる、新しい靴下。この製品の5つのポイントは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.足の観察ガイド付き 足病変が起こりやすい部位に、チェックポイントとなる模様を配置。「今日はこの部分、赤くなっていませんか?」と、自然に足を観察できるようにしている。 2.しめつけない構造 足に負担をかけないしめつけない構造で、血流障害の発生を防げる。 3.5本指ソックス 足の指の変形を防ぐ。 4.縫い目ゼロ 指先や足裏の弱い目が当たらず、摩擦による刺激を最小限にしている。 5.淡い色で気付ける 白やベージュなどの淡い色にすることで、小さな出血や皮膚の変色が見えやすく、足の傷に気づけなかった、をなくします。 	

アイデア名	学校名	メンバー
SweetTea	不二聖心女子学院高等学校 2年	王悦翔 岡崎郁悠 高野紗瑠 塚原綾希音
チーム名	お茶部	
課題	<p>若年女性糖尿病患者の打ち明けにくい悩みの共有</p>	
解決策	<p>女性糖尿病患者の交流を中心とし、語った情報を防ぐための正確なガイドを開発したアプリの開発</p>	
調査実績	<ul style="list-style-type: none"> シンクヘルス 株式会社H club 10代の1型糖尿病患者1名 +保護者(匿名希望) 	
アイデアの詳細	<p>私たちは、10~20代の女性糖尿病患者が抱える「同じ悩みを共有できない孤独さ」に着目し、交流と情報支援を組み合わせたアプリ「SweetTea」を開発。女性限定とすることで、安心して気持ちを打ち明けられる場を設け、同世代だからこそ共感できるサポートを目指す。メイン機能は、SNS機能と、ログインを続けることで自分の街が展開するmy town機能に加え、正確な糖尿病の情報を毎日確認できるガイド機能を搭載し、心の支えと知識の両面からサポートを行う。</p>	
		

アイデア名	学校名	メンバー
T-One Life	広尾学園高等学校 二年生	武内友里 長沢有紗 林理奈
チーム名	ショートゲーマーズ	
課題	<p>1型糖尿病患者が周囲の人々の低血糖の認知度により様々な制限を受け、精神的苦痛を抱えている</p>	
解決策	<p>1型糖尿病患者の生活や、日々直面する課題を体験しながら1型糖尿病患者や低血糖の対処法などについて学べるノベルゲーム</p>	
調査実績	<p>つばみの会(星橋 三田様) IDDMネットワーク 中新井様、幸野様 JADEC 堀田裕子様 松田恵理子様(広南学院総合資料)</p>	
アイデアの詳細	<p>1型患者は周囲の人々の低血糖へ対する理解不足から発生する発見や過剰視により、学校行事や出張参加への参加拒否などのライフイベントに支障が出てしまう。T-One Lifeはそんな理解不足から生まれる偏見を無くすため、人々が1型について楽しく学べるノベルゲームだ。ゲームといった幅広い年齢層にも分かりやすく、抵抗感なく受け入れられる媒体で1型について発信することで、多くの人の認識を改めることが可能になる。また、より多くの人に興味を持ってもらえるように、ゲームの構成もこだわった。</p>	
		

アイデア名	学校名	メンバー
明日の自分プロジェクト 秋のたま	大宮国際中等教育学校 高1	伊藤佳真 山梨陸 遠藤紀那 河田季花
チーム名	さいたまのいざ	
課題	<p>高1生の2名が糖尿病患者さんの有様を日々探している</p>	
解決策	<p>高校生が中心となって、糖尿病を自分ごととして考えるきっかけをつくる。</p>	
調査実績	<p>当事者さんに話を聴き →実際の生活や思いを知り、糖尿病への理解の促進を向上 →又取組むで知識を共有 →高校生向け授業を実施し、参加者へのアンケートで有効性を検証</p>	
アイデアの詳細	<p>高校生が主体となる →糖尿病を「自分ごと」として考えるきっかけを作る →糖尿病患者さんに関わり →実際の生活や悩み、体験談を収集 →文献調査で医学的・科学的知識を収集 →当事者さんの声と照らし合わせ、授業内容を具体化 →高校生向け授業を実施 →当事者さんの体験談やクイズなどを添えて授業を演じる →授業後アンケートで効果を確認 →参加者が糖尿病への理解をどの程度深め、将来の生活意識が変化したかを検証 →調査結果やフィードバックをもとに次回授業や教材を改善 →より効果的な学びの仕組みへ</p>	

KANTO アイデアシート



アイデア名 開食アドベントカレンダー	学校名 メンバー 吉祥女子高等学校 佐藤美子 西原光明 嶋田悠希
チーム名 シッコラ3姉妹	
課題 2型糖尿病患者の多い消費カロリーの多い世代の人が、知識が空しく間違えすぎてしまう 対象者：B型の15~39歳の運動習慣のある人(間食の影響を受ける顧客なし)	アイデアの詳細 普段は低カロリー・低糖質な間食(無塩ナッツや蒸餾・低カロリータイプのホホキゼリー)やご飯のレンジピを中に入れるが、3~5日ほど少し高カロリーな間食(クッキーや高カロリーチョコ)を入れるご褒美DAYを設ける。中身は変えないが、外箱にそれぞれ内容物の合計の栄養成分表示をするが、内容物のそれぞれの栄養成分も別紙でわかる。また少し高カロリーな間食には印をつける。自分の予定に合わせて摂取するカロリーや糖質を減らせるよう、付属の日程シールがあり、事前に決めて貼る。開食アドベントカレンダーによって間食の食べ過ぎを防ぎ、事前にその日の間食の量を把握できるようにする。また、中身が分からないワクワク感を演出することで、治癒のモチベーションアップに繋がる。 株式会社SHARE EAT様(糖尿病患者向けのお菓子を作っている「しゃる会社」)に実績に向けて企業協力していただけることになり、商品化に向けて準備中(来年の春ごろに完成を予定)
解決策 開食アドベントカレンダー 糖尿病患者でも食べられる低糖質な間食をメインにアドベントカレンダー形式にしたもの	
 ▲プロトタイプ	
調査実績 ・豊後中央病院 ・TMGあさか画廊センター ・さいしん糖尿病クリニック ・医者法人熱くり ・株式会社SHARE EAT ・メンバーの祖父	

アイデア名 糖尿病スティグマのない社会を目指して	学校名 メンバー 千代田高等学校 小澤紗来・木村美結 田中吉実・古田りう
チーム名 スーパー戦艦スティグマン	
課題 糖尿病の正しい理解と多くの人のイメージに差があること	アイデアの詳細  糖尿病の種類  1型糖尿病 2型糖尿病 妊娠糖尿病 その他の糖尿病
解決策 ② 【教育的なアプローチ】 ①教科同士のコラボ授業 ②ポスター	
調査実績 ヒアリング ・糖尿病学会 野木亮先生 ・糖尿病協会 塚田裕子様 ・麻酔科医 斎藤拓也先生 ・糖尿病専門医 小野日向美先生 ・1型糖尿病患者さん アンケート ・知人(84人) ・千代田高校教員(27人) ・糖尿病患者	継続的かつ広範囲な発信が可能 学校などに掲示する予定 ※2025年10月30日現在の支 ※QRコードの内容は現在検討中

アイデア名 Pocket free	学校名 メンバー 吉祥女子高等学校2年 佐藤美子 西原光
チーム名 さんちんむす	
課題 インスリン注射を糖尿病患者に使用している患者が「インスリン保冷ケースを知らない」「ケースが患者のニーズに合っていない」	アイデアの詳細 レジュメの意見から必要な条件をまとめ、下記の項目を参考にインスリン保冷ケースを作成する ・大きさ21cm×12cm×7cmのポーチ型 ・インスリン注射器が4本以上入るようにする ・内部素材 防水ナイロン素材、5mm高密度EVA、抗菌PEVAインナー ・保冷剤150~200gを1種に封入する。下部に保冷剤と結露を防ぐための袋も入れる ・温度の目が見える。コンパクトなデジタル温度計を封入する ・上の段には消費期限、使用済みの注射針を入られるようにチャック付きのポケットを二つ作る。マチありのケース。 ・カナルビもつける ・色は黒または灰色 *ポスター作成について 1.病院やクリニックにポスターを掲示してもらう 2.医療機関と連携し、病院・薬局でインスリン保冷ケースの受け取りを可能にする。
解決策 1.糖尿病患者のニーズや条件を満たしたインスリン保冷ケースを開発する 2.ポスターを作成し、インスリン保冷ケースの認知度を上げる	
	
調査実績 ・レジュメを読み患者のニーズを調査。 ・論文から保冷剤の要件を把握。未使用インスリンを保冷する意義を確認。 ・必要な保冷剤量を確かめるために満室中、休み時温度を測定。	

アイデア名 GDM Project	学校名 メンバー 瓜尾学園高等学校1年 花田海美 古弘佳子
チーム名 夏の花	
課題 長期的課題 妊娠糖尿病の認知度の社会 正しい情報の散在 短期的課題 正しい食事困難で負担が大きい	アイデアの詳細 GDM患者さんが安心して食事を選び、食べることができ、誰もが安心して妊娠・出産を迎えられる社会を理想とする。GDM患者さんが妊娠に正しい情報を得られると同時に、GDMの社会的認知度の向上を図ることで、理想の社会を実現させたいと考えている。  GDM患者への直接的アプローチ + GDM患者の周囲の人の意識改革
解決策 1. GDM情報サイトの作成 2. GDMマップの作成。院内・社内コンビニの商品値札に貼る	
調査実績 女性内科医へのヒアリング →正しい情報の散在により患者に負担がかかっている 第41回日本糖尿病・妊娠学会 年次学術大会にて解決策を発表しアドバイスをいただく →間食の明確な認識が患者さんにとって役立つ	

PL挨拶

「新しい医療の形を創りたい」

これが私が今年度代表を務めようと決意した理由です。私は薬学類の学生として、講義や実習を通して多くの学びを得てきました。その中で、医療の専門家の方々がより多くの患者さんを救うために、病院や薬局の枠を超えて地域と連携しようと努力されている姿を目の当たりにしました。私はこうした動きに拍車をかけ、より多くのいのちを救うために、医療の専門家の方々の努力に頼るだけでなく、医療分野と医療外の分野の共創が必要だと考えました。医療の枠の外から行動を起こし医療分野と手をとっていく、私はこのような活動を「医療の新たな形」として地域に根付かせ社会に広げていきたいと考えます。

観客の皆様、本日はお忙しい中お越しいただき誠にありがとうございます。

「若者の柔軟な発想」と「医療の専門家」の共創を通じて、私たち、そして参加中高生が描く医療の未来をぜひお楽しみください。



金沢大学医薬保健学域
薬学類5年
和田 馨

参加校

総応募者数
47人

採択者数
28人

今年度採択者所属学校一覧

石川県立金沢泉丘高等学校 石川県立金沢錦丘高等学校
石川県立金沢錦丘中学校 石川県立小松高等学校
仁愛女子高等学校

北陸inochi学生フォーラム

観客参加型のコンテンツなどを通して新たな医療の形について共に考え、5ヶ月にわたる活動の集大成を北陸の市民へ届けました。

審査員(敬称略)

講演者(敬称略)



金沢大学
医薬保健研究域
医学系内分泌/
代謝内科学 教授
篁 俊成



金沢市市民活動
サポートセンター
・コーディネーター
多橋 和輝



株式会社コメヤ薬局
代表取締役社長
長基 健人



公立小松大学
保健医療学部
臨床工学科 助教
鈴木 郁斗



医療法人社団
おうちの診療所
/日本うんご学会
石井 洋介

教育プログラム報告 (敬称略、肩書は登壇時)

キックオフ @金沢大学宝町キャンパス

中高生のチーム紹介や担当するメンターの発表を行い、糖尿病についての講演をしていただきました。

ゲスト: 篁 俊成 金沢大学医薬保健研究域医学系内分泌・代謝内科学分野 教授 / 内分泌代謝内科 診療科長



デザインシンキングDAY @金沢大学角間キャンパス

デザイン思考についての講演をしていただき、ワークショップを通じて課題への取り組み方を学びました。

ゲスト: 板垣 順平 長岡造形大学 大学院 造形研究科 イノベーション領域 准教授



ヒアリングDAY @北陸大学太陽が丘キャンパス

患者さんや関係者の方にヒアリングを行い、糖尿病から生じる問題について視野を広げました。

ゲスト: 森戸 敏志 石川県済生会金沢病院 薬剤部長 / 石川県病院薬剤師会 会長
西村 卓朗 北陸大学医療保健学部理学療法学科 助教 / I型糖尿病患者
室 貞男 株式会社ムロ 代表取締役



課題のフィードバックDAY @Zoom

考えた課題をi-GIPのOBに発表をし、フィードバックをいただきました。その後メンタリングを行い、アイデアの改善をしました。

ゲスト: 五嶋 大暉 i-GIP 2022 SHIKOKU PL / 総合病院 南生協病院 初期研修医

イノベーションDAY @金沢未来のまち創造館

実際の社会問題に取り組むワークショップと講演をしていただき、画期的なアイデアの生み出し方やマインドを学びました。

ゲスト: 榎原 勝彦 株式会社丸繁製菓 代表取締役社長



中間コンペ @金沢大学角間キャンパス

活動の中間地点として現状の課題・解決策を発表し、フィードバックを通じて客観的な意見を改善へと繋げました。

ゲスト: 米田 隆 金沢大学融合研究域 教授 / 医薬保健学総合研究科 教授 / 附属病院内分泌代謝内科 教授 / 先端観光科学研究所 所長
 山中 雄大 養生デザイン 主宰 / 理学療法士
 羽場 恵美 金沢市福祉健康局健康政策課 課長補佐
 大向 美代子 金沢市泉野福祉健康センター 係長



プロトタイプDAY @金沢大学角間キャンパス

プロトタイプの意義や作り方についての講演をしていただき、アドバイスを受けてアイデアのプロトタイプ作成に取り組みました。

ゲスト: 山本 典子 株式会社メディディア 代表取締役
 松山 峻大 Memorial Compass 代表 / 滋賀医科大学医学部医学科5年



アイデア発信DAY @長土堀青少年交流センター

様々な分野の方の前でピッチを行い、アイデアの伝え方を学びました。

ゲスト: 森戸 敏志 石川県済生会金沢病院 薬剤部長 / 石川県病院薬剤師会 会長
 富木 勇嗣郎 富木医療器株式会社 専務取締役 システム事業本部長
 羽場 恵美 金沢市福祉健康局健康政策課 課長補佐



プレゼンDAY @金沢大学角間キャンパス

聴衆に「伝わる」プレゼンについて学び、相互にフィードバックを行いながらプレゼンの練習を行いました。

ゲスト: 山中 雄大 養生デザイン 主宰 / 理学療法士



北陸 inochi 学生フォーラム 2025



アイデア名	学校名	メンバー
糖尿病お手軽自炊キット	石川県立小松高等学校	中川未結 鈴木一博 細妻沙美
チーム名 Black Pineapple		
課題	アイデアの詳細	
<p>ベルソナ！食事療法で目覚めている糖尿病の糖尿病患者さん</p> <p>食事療法においてカロリーや栄養バランスに配慮しながら自炊するのが難しい</p>	<p>【背景について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元、規格外野菜の使用 <p>【ターゲットについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士の方の協力の下 ・品数4〜5品 <p>【商品について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売価格 → 500円程度 ・販売場所 → ドラッグストア <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の売り場マップ作成 <p>【自炊の流れ】</p> <p>① 来店 ② ドラッグストアで薬とキット受け取り ③ ドラッグストアで買い物 ④ 帰宅 ⑤ 調理</p>	
解決策		
メニューと野菜がセットになったメールキット販売		
調査実績		
小松市長病院：医者、看護師/栄養士 糖尿病患者さんの生活全般について / JA：地元野菜(加賀野菜)、規格外野菜 [リサーチ] 日本糖尿病学会、糖尿病ネットワーク、糖尿病食の宅配&通販ガイドなど		

アイデア名	学校名	メンバー
糖尿病MBTI育成ゲーム	仁愛女子高校	橋平ななみ 木村華菜 立田結千夏
チーム名 Med Bridge		
課題	アイデアの詳細	
<p>高校生は部活を引退し、運動不足になるなどという特徴があると考えた。生活習慣に欠ける続った知識を正しいと思いつくことで徐々に影響が及ぼされると考え、高校生のうちに正しい知識について学ぶ必要があると考えた。そこで、誤った知識を消していると思いつける場がないことを課題とした。</p>	<p>糖尿病MBTI診断で各々のキャラを作成</p> <p>診断結果で出た役割の医師となり患者さんの悩みに対応していく</p> <p>① キャラを患者さんにする ② 自分に自分の診断結果を当てたいと思えないためキャラをその患者さんにあつた医師にする</p> <p>【例】 ① 自分の知識不足にあつた患者キャラと医師キャラ ② ①の患者さんに対応する医師(自分がプレイするキャラ) = 腎臓内科医</p>	
解決策		
糖尿病MBTIを作り診断の質問でその人の知識不足の構成にあつたキャラを作り育成ゲームをプレイしながら知識を身に付けて行く		
調査実績		
千枚のコースごと高校生一泊し、知識がないことの確認、解決策の診断の質問の参考にした 病院名 = 本和病院 医師の先生に協力していただいた		

アイデア名	学校名	メンバー
お薬チェッカー	石川県立金沢南高等学校	長瀬小春 本田陽菜 石川ゆり 関根のどか
チーム名 うどん		
課題	アイデアの詳細	
「薬を飲む」という事に対して認識はあるにも関わらず薬を飲み忘れてしまう	<p>【使い方】 ① 独自のアプリを使って声を収録、薬を飲むタイミングの人力などを行う。→ 誤操作を減らす ② ご飯を食べる前の「いただきます」という言葉を発音する(トリガーとなる言葉を発音することで応用可能) ③ 薬の入った引き出しが開き、音声で「薬は飲みましたか？」とお知らせしてくれる。 ④ 利用者が薬を取り出し、引き出しを閉めたら音声は止まる。 ⑤ 引き出しの上にオブジェのようなものが乗っていて、オブジェの一部が倒れる → 飲んだか飲んでないかが一目で分かるように</p> <p>【その他】 ダイニングテーブルの上に置く置くという設定 → インテリア感のあるデザイン 例) 季節の装飾物 花</p>	
解決策		
「いただきます」という言葉に反応して薬を出してくれるお薬箱を販売する		
調査実績		
・ヒアリング日の3名 ・北陸病院の従業員の方 ・あんのん山科の薬剤師さん ・金沢駅前内科・糖尿病クリニック ・いそべ糖尿病内科クリニック ・アンケートで知り合った女性		

アイデア名	学校名	メンバー
健康診断の結果通知書の改革	金沢東丘高校	沖山郁希子 東結衣 永井美紅
チーム名 しゅがーけん		
課題	アイデアの詳細	
毎年健康診断を受けていて自覚症状はないが再検査を言い渡されている人が再検査に行っていないこと	<p>現在の健康診断の結果通知書 → 危機感を感じにくいのでは？</p> <p>再検査通知を受ける年代が重要視しているであろう 再検査にいかず病気が進行することで増える金銭的負担や、なる可能性の高まる具体的な病気を健康診断の結果に入れる</p>	
解決策		
健康診断の結果通知書の改革をする。	 <p>精密検査 血糖</p> <p>QRコードを読み込んでデジタルで結果を見れるようにすることでより見やすくする。</p>	
調査実績		
・北陸病院糖尿病チーム様 ・特別養護老人ホーム藤華苑様 ・和田様 空様 ・森戸先生 西村先生 ・笹先生		

アイデア名	学校名	メンバー
Diawalk	石川県立小松高等学校 今泉・東出・福田	
チーム名 たこ焼き屋うまい特選		
課題	アイデアの詳細	
糖尿病の再検査を自発的に受ける人を増やす	歩いたり、ミッションをクリアしていくとポイントが貯まっていく ↓ 貯まったポイントは、クーポンや病院の待ち時間が少なくなるなどの特典に使える さらにアプリにゲーム要素も加え、病院の待ち時間などに楽しめるように	
解決策		
多くポイントがもらえるアプリ ミッションとして病院の受診を追加 ゲーム要素を加え、楽しめるように		
調査実績		
産学産法士の方へのヒアリング 1型・2型糖尿病患者へのヒアリング 薬剤師の方へのヒアリング 企業へのアンケート		

アイデア名	学校名	メンバー
楽しく学ぼう ダイアベティス	金沢錦丘高校 下田千裕 山出真由	
チーム名 るわふわ		
課題	アイデアの詳細	
糖尿病の症状が実感しにくいから早期の治療に取り組みにくいこと	視力の低下、眼鏡やサングラスをかけながら日常生活を送ってみる ↓ 視力の低下！手足におもひをつけてより下りをする。	
解決策		
視力体験を行う		
調査実績		
現状なし		

アイデア名	学校名	メンバー
Kalle Frejer	石川県立小松高等学校 阿部夢海、岡安理奈、西藤七海、渡辺光奏	
チーム名 ランゲルハンス	金沢錦丘高校 河並梨子 浜野羽梨	
課題	アイデアの詳細	
血糖値を測定するときの注射に痛みがあること -分食(食事量5、6回に分ける)- 痛みを感じる回数が多い -お腹の子を思うと、ストレスでも止めることができない	○痛みの感覚を麻痺させて痛みを感じなくさせるようにする ①冷やすリング=クールネックリングのようなもの(指先につける) ②ばんそうこうのような物に巻き付けて冷やせるもの ③叩くと冷える保冷剤=患部など冷蔵庫がない場所でも使える	
解決策		
注射の痛みを軽減できるものを作る		
調査実績		
・妊娠糖尿病を患っていた方2名 ・糖尿病センターで働く看護士さん ・萱先生		

アイデア名	学校名	メンバー
再検査社員旅行	石川県立小松高等学校 阿部夢海、岡安理奈、西藤七海、渡辺光奏	
チーム名 小松アベンジャーズ		
課題	アイデアの詳細	
仕事を休みたくないという理由で再検査に行かない人がいること	企業に社員旅行のプランを導ねる ↓ プランに再検査を組み込んだ新しいプランを提案する ↓ 社員旅行を行ってもらう ↓ 実績を増やし、行政に支援を依頼する (再検査に行くことで旅行券がもらえるようにする) プランの例 (1日目) 7:40 加賀温泉駅発 10:03 大塚駅着 10:30 付近の病院にて再検査 12:00 各自昼食 14:00 USJ到着(宮内) 18:00 各自夕食 20:30 USJ退場 21:00 ホテルチェックイン(2日目) 9:00 ホテルチェックアウト 10:00 神戸到着 観光 16:00 神戸出発 17:00 大阪駅 夕食 18:12 大阪駅発 20:28 加賀温泉駅着	
解決策		
再検査社員旅行		
調査実績		
ヒアリング 会社員K.Tさん(ベルソナ) 石川県済生会会沢病院薬剤科薬剤師部長前原健俊先生 西戸敬志博士		

HOKURIKU アイデアシート



アイデア名	学校名 メンバー
ポイ贈む習慣	一島千よか 山田菜南 山田真伊 横山忍奈
チーム名 茶太郎	
課題 田舎をたくさん することを習慣化	アイデアの詳細 田舎計を取り入れる 贈んだ回数がかかる → 田舎を急務する → 田舎が増える ポイ活を取り入れる → 達成感を覚えられる → 継続できる 〈ポイ活について〉 贈んだ回数に応じてポイントが貯まる → 一定のポイントを貯めるとお金に交換できる
解決策 田舎計を取り入れる	
調査実績 福井赤十字病院 管理栄養士の方	

PL挨拶

中高生の皆さん、約5か月間にわたり本プログラムに参加していただき、本当にありがとうございました。

このプログラムを終えた今、皆さんはどのような思いを抱いているでしょうか。達成感で胸がいっぱいの人がいれば、「もっとできたはず」と悔しさを感じている人もいられるかもしれません。3年前にこのプログラムに参加していた私は「自分は誰かのいのちを救うことができたのだろうか」と感じていました。しかし、今では考えが変わりました。皆さんがこの5か月間、ダイアベティスというテーマに真剣に向き合い、考え、発表したというその姿勢こそが、社会に確かなインパクトを与えていると実感しています。その積み重ねが、将来、誰かのいのちを守ることにきっとつながります。

i-GIPのミッションに、「若者の力でいのちを守る社会を創る」という言葉があります。私は、i-GIPが指す“若者”とは、これから先の未来で社会を担い、さまざまな形でいのちを支えていく人のことだと思っています。

皆さんがこれから歩む道は、医療や看護、研究、教育、地域活動など、本当に多様だと思います。けれど、どんな分野であっても、“いのちを守る”という視点は必ず生きていきます。

この5か月間、ダイアベティスというテーマを通して学んだことや感じた想いが、これからの皆さんの進路や生き方の中で形を変え、誰かのいのちを支える力になっていくことを願っています。

最後になりましたが、このプログラムを支えてくださった関係者の皆さま、温かく見守ってくださった保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

皆さまのご支援のおかげで、今年もi-GIP KYUSHUを無事に修了することができました。これからもこの活動を通して、「若者の力で命を守る社会」を共に築いていければと思います。今後とも、i-GIP KYUSHUへのご支援とご関心をどうぞよろしくお願いいたします。



福岡大学医学部
看護学科 2年
杉本 実優

参加校

総応募者数

90人

採択者数

31人

今年度採択者所属学校一覧

久留米信愛高等学校 福岡県立城南高等学校
福岡県立筑紫高等学校 福岡県立伝習館高等学校
福岡雙葉高等学校
佐賀県立致遠館高等学校 早稲田佐賀高等学校
大分県立大分上野丘高等学校

i-GIP KYUSHU Forum 2025

約5か月間の集大成。教育プログラム・メンタリング・ヒアリングを経て、見つけた真の課題と当事者に真摯に向き合いました。その軌跡と到達点を発表し、大きな学びへと繋げることができました。

審査員(敬称略)



山口大学 学長
日本糖尿病学会常務理事
糖尿病診療ガイドライン 2024
統括委員長、策定委員長
谷澤 幸生



総合メディカル株式会社
ヘルスケア人財開発部
学術情報グループ兼
そうごう薬局 天神中央店
郡司 清志



佐賀県工業技術センター
研究企画部
(諸富デザインセンター兼務)
特別研究員
佐藤 彰



(独)労働者健康安全機構
福岡産業保健総合支援センター
産業保健専門職(保健師)
市川富美子

教育プログラム報告 (敬称略、肩書は登壇時)

Kick off – デザイン思考を知る日

活動を始めるにあたり、ヒアリングやインタビューの考え方や進め方を学び、具体的にヒアリングやインタビューを実施する場所について固めました。



Methodology Day

今後解決策を考えていく上での一つの手法として、ワークショップを通して「デザイン思考」を学びました。デザイン思考の学びをとおして、課題を深ぼり、当事者像を掴み、それに対する解決策を創出するためやり方を手に入れました。

ゲスト：

倉田 博之

九州工業大学 大学院 情報工学研究院 生命化学情報工学研究系 教授



Mentoring Day

メンタリングの経験を豊富に持つ方からのメンタリングをとおして、今後の方向性やヒアリングの仕方等について確認ができました。

ゲスト：

水谷 愛

i-GIP KYUSHU 創設期メンバー/2022 PL

松崎 広太

i-GIP KYUSHU 創設期メンバー

安達 千紘

i-GIP KYUSHU 創設期メンバー



Prototyping Day

実際のプロトタイプを作成する試作工房に伺いました。プロトタイプを作成する上での考え方と、実際の制作現場を見学することで、プロトタイプに関する理解を深めました。

ゲスト：

熊丸 憲男

福岡大学 ものづくりセンター 准教授



Poster Day

ポスターによる中間発表の場。
講師からのフィードバックや他チームとの相互フィードバックを通して、課題の深堀り、
解決策のブラッシュアップを進めていく機会となりました。

ゲスト：

工藤 孔梨子

九州大学病院

武市 幸奈

九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科



“ Understanding Media ” Day

『メディア論』についての講演を聞き、メディアとは何なのか考える日。「発信」がどのような
影響を与えるのか、考える機会をそれぞれが持ち、解決策や発信について考え直す機会と
なりました。

ゲスト：

佐藤 忠文

九州産業大学 地域共創学部 地域づくり学科 講師



Pitch Day

フォーラム前最終発表日。アントレプレナーシップの専門家からフィードバックを
いただいて、自分たちのアイデアを見直し、今後の進め方について考えられました。

ゲスト：

八木田一世

マーケティングデザインスタジオSEE°C 代表/

北九州市立大学 大学院 マネジメント研究科 特任教授

i-GIP KYUSHU Forum 2025

約4か月間の集大成となる最終発表日。審査員からのフィードバックを受けて、それぞれが
自身の学びを改めて振り返り、i-GIPの活動を締めくくる場となりました。

アイデア名

学校名 メンバー

やさしさロッカー

大分上野丘高校
池邊葵 松尾麗那
森永源大 岡舜将

チーム名 Sib nH ero e s

課題

インスリンを自己投与する患者さんが、認知機能の低下に伴い、**2度打ち**（本来は不要なタイミングで“打っていない”と勘違いし、インスリンを重ねて投与してしまう）のリスクに晒されてしまう

解決策

「やさしさロッカー」一度取り出したら、次の注射時間までボックスに鍵がかかることでインスリン製剤の取り出しを防ぐ。

調査実績

- ・家族が常に見守れるわけではない
- ・2度打ちはハイリスクである
- ・視覚的な表示は高齢者さんにとっても見やすい

アイデアの詳細

- ① **ロック機能**
一度取り出したら、次の注射時間までボックスに鍵がかかることでインスリン製剤の取り出しを防ぐ。
▶認知症による2度うちのリスクを減らす
- ② **厳重セキュリティ**
外部からはパスワード変更できず、見守っている家族が変更することができる。
▶誤操作によるロック解除を防ぐ
- ④ **衛生的な保存システム**
保管箱内は低温で管理されている
▶薬を安全に管理
- ⑤ **聴覚的に判断をサポート**
投与時間を単に通知するだけでなく、日常に馴染む音を使って利用者への心理的負担を軽減する
▶高齢者や、認知症を患っている方にとってもわかりやすい

アイデア名

学校名 メンバー

誤解から理解へ

久米米信愛高等学校

チーム名 コマユミ

平位友愛、四ヶ所真生、
天本琴寧、大呂美由希

課題

2型糖尿病患者さんが友人悪気のないスティグマによって傷ついてしまうこと

解決策

病院などにポスターを貼ってもらう
紙の形を変えたり紙に色を付けたりして他のポスターとの差異化を図る
イラストを多く入れる

インターネットの広告
フォント、大きさ、色の工夫
記事に興味を持ってもらう見出し

調査実績

HA内科 H先生
K大学病院 G先生
HI内科 K先生

アイデアの詳細

- ポスター**
【スティグマの内容】
- ① だらしのない食生活をしてきた
 - ② 特定の食べ物が食べられないかのように扱われる
 - ③ 打ち明ける前と後で見える目が変わる
 - ④ 自己管理ができていない（医療従事者を含む）
- 【伝えたい内容】
- ①,④ 糖尿病は食習慣の乱れによってなるものではなく、遺伝的になる人が多い
 - ② 他日でカバーしたり気をつけたら好きなものを食べても問題ない
 - ③ 糖尿病の症状や理由を説明することが大事

インターネットでの記事

- 【内容】
- ・当事者が検索しそうなキーワードを盛り込む
→ex) 体験、悩み、解決方法、ストレス、偏見、差別
 - ・事者が共感を持ってもらうような内容
→ex) 体験談

アイデア名

学校名 メンバー

インスリングリップ

早稲田佐賀高等学校
篠天幻 渡田実里 佐野稀沙

チーム名 じくさすルート

課題

- ・高齢者やリウマチなどで手が震える人はインスリングリップが持ちにくい
- ・インスリンが固くて安定しない

解決策

- ・インスリン専用のグリップを開発する
- ・取り外し可能なためのデザイン

調査実績

- ・唐津の病院で看護婦の方にヒアリング
- ・粘土を用いたプロトタイプ作成

アイデアの詳細

- ・インスリン専用のグリップ
- ・インスリンは使い捨てのため、取り外し可能にすることで、何回でも付け替えて使用できる
- ・太いデザインにすることで、安定して持ちやすい
- ・後に柄や色をつけて、いろいろな人が楽しめるデザインにする

アイデア名

学校名 メンバー

究極の選択

福岡高校 新井勇乃
小堀くるみ
谷口翼

チーム名 タフネス

課題

仕事などの理由で忙しい
二型糖尿病患者さんの
運動不足

解決策

会社や駅などでポスターを掲示
→その場での行動促進

調査実績

・ヒアリング
→八谷百合子様/産婆保健師(産業医科大学)
A様/理学療法士(福岡病院)

アイデアの詳細

理学療法士の方からNEATという言葉を知った。NEATとは日常生活による消費カロリーだ。このNEATに基づき、従来の運動療法とは異なるアプローチを考えた。計画的運動ではなく、「日常生活でより多くのカロリーを消費する選択」を自然に促す仕組みを作る、というアイデアだ。

例) 場所: エスカレーターと階段の間の散歩前
「この階段を登ればケーキ14個分(0kcal)消費できます！」
「行動を選択することでどのような効果があるのかを可視化する。」

場所: 会社の階段の入口
ドアは常時間ける
「エレベーターを持つ？今すぐ階段を手に入れよう！」
「エレベーターに乗る習慣がある人の階段利用を促す



アイデア名 小児1型糖尿病患者さんとその周りの方に向けたカードゲームの作成	学校名 メンバー 福岡雙葉高等学校 吉留樹希, 吉元渚巴
チーム名 ツインスリン	
課題 小児1型糖尿病患者さん(4-6歳)は遊びや活動に夢中になると体調変化に気づかず、低血糖を起こして倒れてしまう場合があること。 ↓ ・体調変化を言葉で正確に伝えられない。 ・何かに夢中になると、自分の体調への注意が薄れる。	アイデアの詳細 課題に対する解決策: カードゲーム作成 →目的: 遊びながら低血糖の症状に気づく力を身につけ、周りに伝えることができるようになること。 →カードゲーム詳細 ★4種類のカードで遊ぶ★ ●イベントカード 1人で遊んでいる、友だちと遊んでいる、先生・親がいる場所と遊んでいるの3パターン ●サインカード 低血糖のサインが書かれている ●アクションカード 低血糖になったときにとる行動が書かれている。 ●ごほうびカード 正しいアクションカードが出せたときに渡すカード。これが一番多い人が勝ち。 ★ゲームの進行★ ①患者役を1人決めて、患者役は誰にも見せないようにサインカードを引く。 ②患者の友達役にアクションカードを均等にくばる。 ③進行役(大人)がイベントカードを1枚引いて読み上げる。 ④患者役は引いたサインカードの内容をジェスチャーで周りに伝える。 ⑤患者の友達役の人は、患者役のジェスチャーを見て、患者役の立場になってどんな行動をすれば良いか考え、手元にある最適なアクションカードを出す。 ⑥全員が出したら、進行役が正解を言う。 ⑦正解した人にごほうびカードを渡す。(役を交代する)
解決策 小児1型糖尿病患者の子どもたちが、遊びながら自分の体調変化に気づく力を身につけられる仕組みをつくることを目的とし、「勉強」ではなく「楽しい遊び」を通して、低血糖のサインや正しい行動を自然に覚えられるように、カードゲーム形式で学ぶ方法を考えました。また、子ども本人だけでなく、周囲の大人や友達と一緒に遊べる内容にすることで、周囲の理解やサポート意識を高めることも狙っています。	
調査実績 ヒアリング先: 福岡大学病院小児科 福岡雙葉幼稚園 →分かったこと: ・小児1型糖尿病患者さんは低血糖に気づきにくく、活動中に倒れて搬送されることがある。 ・周囲のサポートが必要不可欠。 実践場所(予定): 福岡雙葉幼稚園	

アイデア名 まるめし食堂	学校名 メンバー 早稲田佐賀高校 二年 柴田 心美 丸山 新奈
チーム名 まるしば	
課題 佐賀県唐津市にて糖尿病と認知症を患う患者さんに話を聞いたところ、寝たきりで運動ができず、薬と食事で糖尿病の対応をしていると聞き、470円で行われている、現状の唐津市の配食サービスの普及を目指した。	アイデアの詳細 佐賀県唐津市の子ども食堂にて、高齢者向けの配食サービスで実際に提供される食事を実際に食べてもらう。市役所の高齢者支援課の方にもイベントに参加してもらうことによって、イベント内で、食事+市のサポートについて問い合わせができるようにする。
解決策 市役所と宅食サービスを唐津市で行っている宅配123と共同し、唐津市の子ども食堂にて、宅配123で実際に提供される食事を高齢者や、宅食サービスの利用を考えている人に向けて試食会を行う。	
調査実績 看護小規模多機能型居住介護 岩本内科つばめ 患者Aさん、管理者のBさん 唐津市市役所高齢者福祉課 Cさん	

PL挨拶

「今を生きる私たちと、描いた未来の間にある溝を少しでも減らすこと」。これが、私にとっての医療の位置付けです。人それぞれの幸せの意味を理解し、寄り添い、共に未来を描くことこそ、「人を救う」という行動だと考えています。

ただ、どれだけ強い「救いたい」という思いや論理力があっても、それが見える形で社会に映し出されない限り、救える人も救えません。だからこそ、産学官民の様々な分野の方々を巻き込み、「愛し、愛されるSHIKOKU」を実現することで、社会を少し明るくできると信じています。

さて、今回のテーマは「ダイアベティス（糖尿病）」。「私の生まれ育った徳島県は長年、糖尿病による死亡率が全国ワースト1であり、現在も全国平均を上回っています。1人でも多くの人に、苦しみや葛藤に捉われず、それぞれの描いていた未来をのびのびと歩んで欲しい。そう強く願っています。

この半年間で、中高生・大学生は様々な幸せの形に触れたのではないかと思います。我々若者なりの”今と未来の溝を埋める方法”の数々に、期待しててください。



徳島大学医学部
医学科2年
角 優花

参加校

総応募者数

40人

採択者数

31人

今年度採択者所属学校一覧

徳島県立阿波高等学校
徳島県立城東高等学校
徳島県立鳴門渦潮高等学校
徳島市立高等学校

徳島県立徳島北高等学校
徳島県立城ノ内中等教育学校
徳島県立脇町高等学校
愛媛県立松山南高等学校

i-GIP SHIKOKU Forum 2025

審査員(敬称略)



徳島大学 先端酵素学研究所
糖尿病臨床・研究開発
センター教授

松久 宗英



株式会社bokutaku
代表取締役

関戸 大



徳島県保健福祉部
健康寿命推進課 課長

井原香



徳島大学発ベンチャー
株式会社GoFer 代表取締役

畠中健斗

教育プログラム報告 (敬称略、肩書は登壇時)

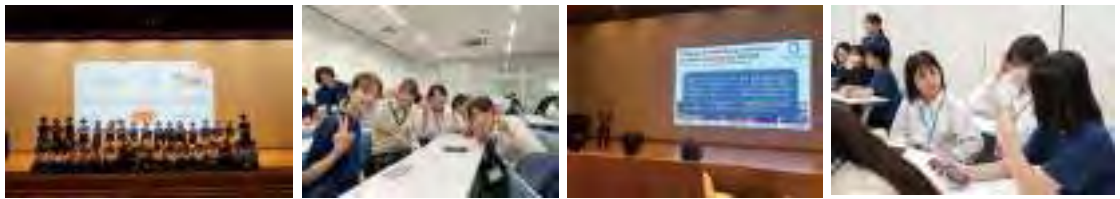
はじまりの日

メンターの発表や糖尿病の概要やデザイン思考の「共感・理解」の講義を行い、約半年間にわたる活動の第一歩を踏み出しました。

〈ゲスト〉 **松久 宗英** : 徳島大学 先端酵素学研究所 糖尿病臨床・研究開発センター教授

〈ボツンと四国。〉

川野 訓平、浜田 智也: i-GIP 2024 KANSAI、inochi WAKAZO Forum 2024 最優秀賞



手段を手に入れる日

デザイン思考についての後援を聞き、実際にヒアリングデータを元に課題設定を行いました。

〈ゲスト〉 **北岡 和義** : 徳島大学 教養教育院 准教授



とにかく発信する日

これまでの成果を発表し、交流や講演を通じて、自らの考えを社会へ届ける「発信」の意義と実践力を高めました。

〈ゲスト〉 **関本 大介** : 株式会社YellPharmacy 管理栄養士
五畠 大暉 : 総合病院 南生協病院 研修医



洗練する日

メンターの発表や糖尿病の概要やデザイン思考の「共感・理解」の講義を行い、約半年間にわたる活動の第一歩を踏み出しました。

〈ゲスト〉 清元 佑紀 : ジョージワシントン大学 PhD Student
中井 洸我 : 株式会社クロスメディソン

枠にとどまらない日

徳島大学の北岡先生をお招きし、メンターのほしいカバンや高校生のアイデアのプロトタイプを作りました。

〈ゲスト〉 北岡 和義 : 徳島大学教養教育院准教授



相手に届ける日

プレゼンをする時の話し方や資料作成についての講演を聞き、自分たちのプレゼンについてのフィードバックも得られました。

〈ゲスト〉 前田 謙利 : 株式会社 固
関戸 大 : 株式会社bokutaku 代表取締役



天王山の日

審査員の方を数名呼びして実際の本番形式でプレゼンを行い、審査していただきました。

〈ゲスト〉 原田 剛 : 株式会社ワイヤーオレンジ
喜多 美幸 : 徳島県保健福祉部 健康寿命推進課
賀川 義光 : 管理栄養士 AWADM.com代表世話人

inochi Gakusei 糖尿病フォーラム




アイデア名	学校名	メンバー
傘つなぐアームカバー	徳島県立阿波高等学校	辻美華 山本穂風 西藤那音
チーム名	あわてる	
課題	<p>災害時、清潔な水が手に入らなければ、かかりつけ病院で透析ができなくなる。しかし、現在病院間で電子カルテのデータ共有ができていない。</p>	
解決策	<p>透析患者さんが腕の傷を隠したり、手足を冷やさないようにするためのアームカバーに緊急時必要な最低限の情報を付ける。</p>	
調査実績	<p>2型糖尿病患者 50代男性 透析患者 40代男性 内科看護師 1名 透析看護師 2名</p>	
アイデアの詳細	<p><懸念する情報> ・透析方法(血液透析 or 腹膜透析) ・透析日(日曜会 or 通常日)と透析時間(午前 or 午後 or 夜間) ・合着室 ・使っている薬、使っていない薬 ・アレルギー ・クワイアウン(汗) (基本となら体重) <工夫> 個人情報を保護するために文字ではなくカラーコードで示す</p> 	

アイデア名	学校名	メンバー
目で見ておいシート!	徳島県立城東高等学校	中本美香 徳島市立高等学校 西村萌都
チーム名	いちごチヤーン	
課題	<p>入院初と比べて味が薄い入院中の食事にギャップを感じ、食事を進めなくなっている</p>	
解決策	<p>子供(第三者)の創作物という「社会的な温かみ」を食事の場に介在させることで、他者との情緒的なつながりを感じさせ、孤独感の解消とポジティブな感情の喚起を図る。味覚以外の感覚を通して「食事の楽しさ」を構築させる。</p>	
調査実績	<p>【ヒアリングについて】 -入院経験のある高齢男性2名(2型) -川島病院の医師2名 -天満病院の入院患者様2名(2型) -公園で散歩中の方15名(2型やその家族の方など) 【プロトタイプについて】 -天満病院の入院患者様2名(2型) -オープンチャット6名(1型、2型の患者様) -公園などで15名にアンケート(2型やその家族の方など)</p>	
アイデアの詳細	<p>【内容】 ①患者様の過去の記憶や嗜好といった個人の物語をヒアリングする ②リハビリ(作業療法)の一環としてお題にあった絵(患者様の過去、趣味など)を子供に書いてもらう ③夕食時にそのシートを敷いて、食事をしてもらう 【メリット・工夫】 ・味覚ではなく視覚により食事時間が楽しくなる ・子供にとっても入を元気づける経験ができる機会となる 【社会実装に向けて】 ・看護婦さんの協力を得る</p>  <p>使い方イメージ</p>  <p>目で見ておいシート!</p>	

アイデア名	学校名	メンバー
はなやっつら! コイン	徳島市立高等学校	井上咲来 角安球 永吉希帆 藤野結美
チーム名	はなにかー	
課題	<p>「健康診断で糖尿病の境界型と診断された後改善し、厳しい制限のある。話から解放された人」をベルソナにし、「境界型と診断されて一時的に数値は改善したものの、制限生活から解放されたことでの元の生活に戻ってしまうこと」を課題とした。</p>	
解決策	<p>毎朝コインを1枚削いてその日の目標に貼り込み、常に達成状況を確認する。達成できた日は賞品、できなかった日はお菓子をカレンジャーに入れて記録する。1か月が経つとコインをすべて回収し、翌月も再行する。</p>	
調査実績	<p>50代男性Ⅱ型糖尿病患者、70代男性Ⅱ型糖尿病患者、60代男性LDL悪・コレステロール値異常の方の計3名にヒアリングをさせていただきました。</p>	
アイデアの詳細	<p><仕組み> 目標コインは運動10種と食事3種で構成され、裏に目標のピクトグラムと記入欄、裏は赤色で示される。患者は生活リズムに合わせてコインをレベル1・2に分類し、月5日だけレベル1を返べるようにして柔軟に適用する。</p> <p><効果> ランダム性の楽しさ、色による達成の可視化、即時フィードバックにより行動の継続を促す。目標をレベル分けして返べるため、無理なく続けられ、患者のモチベーション維持と生活習慣の安定に役立つ。</p> 	

アイデア名	学校名	メンバー
Diabetes Emergency Visual Card	香川県立松山南高等学校	栗原謙士 町田衣桜華
チーム名	ほんかん(仮)ー	
課題	<p>救急で応急処置をされる際に苦しくて持病について話せない</p>	
解決策	<p>糖尿病患者カードを持っておく</p> 	
調査実績	<p>Ⅰ型患者の妻、Ⅱ型患者の2名を主にヒアリングした。他に、6名の患者にもヒアリングした。</p>	
アイデアの詳細	<p>JMDSが発行している10カードは、緊急時の対応や、患者自身が必要な情報を書き込める点などが非常に優れている。しかし、糖尿病カラーの青をモチーフとしたカードは緊急性を感じにくい。また、他のカードに比べて気が付かれにくいと考える。私たちは、救急搬送時、胸が苦しくて自分の状態を伝えることができなかったという患者の声を課題と認識し、患者が話すことができなくても自分の持病や必要な対応を一目で伝えることができるピクトグラムを用い、色違いを覚えることで緊急性と感じやすさを高めたカードを作成することにした。</p> <p>この新たな10カードを普及させ、患者誰もが所持する社会を実現し、患者の生命と健康を守り、患者がより安心して過ごせる社会を創り出します。</p>	

アイデア名	学校名	メンバー
1型糖尿病の名称変更	徳島県立城ノ内中等教育学校	高口 龍文 吉田 謙子
チーム名	和ののちハレ	
課題	1型糖尿病に対する 社会の理解の薄さ 糖尿病の知識の薄さ によるスティグマ 1型糖尿病と2型糖尿病の混同	
解決策	1型糖尿病の名前を2型糖尿病と 区別し、 1型糖尿病の名称変更する、 1型糖尿病の名称変更について の授業や授業を実施。 ダイアベティスは2型糖尿病の名 前として普及していく予定。混同 しないように別名として伝えるよ うに名称変更	
調査実績	非対面ヒアリング(シート) 1型糖尿病の女性(30代) 2型糖尿病の男性(60代) 対面ヒアリング 2型糖尿病患者の方の良さん AWA DM.com、糖尿病フォーラ ムでのヒアリング 城ノ内生徒にアンケート	
アイデアの詳細	1型糖尿病の名称変更 1型糖尿病の名称を2型糖尿病と 区別することで、1型糖尿病患者 の2型と混同されることで悩ま されてきたスティグマをなくす。 ダイアベティスに名称変更してい る現在に追加する形。 ○城ノ内高校さんが1型糖尿病の 名称変更について授業 糖尿病の知識を惜もらい、1型 糖尿病名称変更の重要性を普 及、名称変更において重要となる 第三者の意識を高める。また客 観的な意見を得る。 徳島大学松久先生のご協力を得 て、糖尿病についてご講義を もらう。糖尿病についての知識を 高める。 アルツハイマーなどと同様。	
		

アイデア名	学校名	メンバー
絵本で伝える糖尿病	徳島県立城ノ内中等教育学校	中川仁乃 田所優芽 豊部温南 波磨和奏
チーム名	中期同飯南	
課題	1型糖尿病と2型糖尿病が 混同している。治療の方法 がわからないなどといった知 識不足ゆえの偏見や噂話、 学童などの受け入れ拒否な どを患者が受けていること。	
解決策	1型糖尿病の発症メカ ニズムと糖尿病に関する詳 しい知識を載せた絵本を親 子で読んでもらうことによ って、1型糖尿病をみんなが 当たり前知っている世界 をつくる。	
調査実績	1型糖尿病の方6人、2型 糖尿病の方1人、1型糖尿 病のお子さんを抱える親御 さん1人の計8人にヒアリン グを実施。偏見や学童の受 け入れ拒否について多く聞 いた。	
アイデアの詳細	<p><絵本の内容> 位置が糖尿病発症のメカニ ズムと症状、治療法について生 き物を使って表現。絵本の最 後には親向けの専門知識やこ の本を作る高校生の思いをま とめたページをもうける。</p> <p><工夫> 小さな子供でも楽しく読めるよ うに糖尿病を直接的に表現す るようなものは避け、生き物な どを登場させる。また、親子で 読むことによって親も学ぶ機 会が増えたり、親子の会話が 促進される。</p> 	

アイデア名	学校名	メンバー
変形インスリンポーチ	愛媛県立松山南高等学校	山路大陽 河野一輝
チーム名	citrus	
課題	インスリンポーチは温度管理 の難しさ、漏洩や破損防止、 注射器や針の安全収納、携 帯性と自立たなさの両立、旅 行時の規制対応、適切な廃 棄・ラベリング確保などが課 題である。	
解決策	現在のインスリンポーチよ りも使いやすく、持ち運び しやすい物を作る。	
調査実績	1型糖尿病の方2人、2型 糖尿病の方1人、1型糖尿 病のお子さんを抱える親御 さん1人のにヒアリングを真 施。	
アイデアの詳細	折りたための「変形ポーチ」は 普段は薄型カードサイズで目 立たず、開くと内側が二重の 折り紙構造になり空気流路を 作って自然冷却を促す。イン ジケーターは温度だけでなく 「累積加熱」を示す色変化糸で 熱履歴が一目で判る。注射器 はリール式で使う分だけ引き 出し、表すと針が自動で密封 される。外蓋は蓋せ替え式で 目立たず、薬室ラベルや予備 針を差し込める薄型ポケット。 船室で位置を判別する凹凸 マーク。薬室を収納するスリ ーブを備え、ワンタッチロックと洗 濯可能な防臭素材、ベルトク リップ/肩掛けで携帯性も高 めた設計。	

アイデア名	学校名	メンバー
暮らし何歳の食べ合わせーみ んなでわいわい大作戦ー	徳島県立松山南高等学校	松原美希 石川望生 徳島山崎 穂南希
チーム名	HAMMY'S	
課題	1型糖尿病患者さんが血糖の 過度な上昇を気にして、他の子 と同じように食事を楽しめない。	
解決策	血糖値の急激な上昇を防ぐ(GI 値の低い)MENUの提供の依頼 とその宣伝。	
調査実績	・糖尿病患者(1型1人2型1 人) ・糖尿病を専門とした看護師・ 医師 ・栄養士	
アイデアの詳細	<p>血糖の急激な上昇を防ぐ料理 等の開発の提案や依頼</p> <p>低GIメニューの提供を多くの患 者さんに向けてもらえるよう、宣 伝する</p> <p>ステッカーの開発</p>	

SHIKOKU アイデアシート



アイデア名	学校名	メンバー
Insu-Link	徳島県立城東高等学校	高田庵司 大西悠高 灰田悠叶
チーム名	InsuLink	
課題	アイデアの詳細 【内容】 1. キーホルダーとして持ち歩く 2. ペンを打つ時間(18時)になると飲む時間に光と通知で通知 3. 「光ってるよ」という友人の声が最後のリマインダーになる 【メリット・工夫】 ・グラスマーカーとして活用 ・糖尿病のことを言わずとも周囲の人を巻き込んでリマインドできる ・光で飲み物の色が変わり、補助で泡立つことで話のタネにもなる	
解決策	【調査実績】 - 親の職場の人 1名(ベルソナ) - 公園で出会った2型糖尿病患者様3名 上司が罹患している女性 - insu-link で出会った1型糖尿病患者様方へのピアリング	
課題	【調査実績】 - 親の職場の人 1名(ベルソナ) - 公園で出会った2型糖尿病患者様3名 上司が罹患している女性 - insu-link で出会った1型糖尿病患者様方へのピアリング	

アイデア名	学校名	メンバー
糖尿病豆知識付きスケジュール帳	徳島県立徳島高等学校	礎優寿花、坂本栞
チーム名	magnes	
課題	アイデアの詳細 ＜伝える情報＞ ピアリングを通して明らかにした「知りたかったけど知ることが出来なかった情報」をもとにした豆知識や、高齢者が日常生活で役立てやすい糖尿病の基礎知識。 ＜社会実装までの流れ＞ 協力先は徳島県美馬市の病院や診療所。美馬市の病院は学校の探究活動などで聲がりがあることに加え、糖尿病患者が多く、特に高齢の患者さんが情報入手に消極的な点を問題として抱えている。	
解決策	【調査実績】 約20名の方にピアリングを実施。対象は、20代の若年層から70代の高齢層までの1型および2型糖尿病患者さんに加え、糖尿病患者さんと日常的に関わる看護師および栄養士の方々。	
課題	【調査実績】 約20名の方にピアリングを実施。対象は、20代の若年層から70代の高齢層までの1型および2型糖尿病患者さんに加え、糖尿病患者さんと日常的に関わる看護師および栄養士の方々。	

アイデア名	学校名	メンバー
意思表示ストラップ	徳島市立南高等学校	紀之堂山菜 莉田日菜子 柳生八重雄
チーム名	SKY CIDER 8	
課題	アイデアの詳細 【詳細】 糖尿病患者さんの中には友人・同僚などに過度な配慮をされるという方がいる反面、周囲に理解されない、配慮が足りないと感じる方もいらっしゃる。ピアリングからわかった、パーツを自分で組み合わせて身につけることで、こういった「いる配慮」と「いない配慮」を直接相手に説明しなくても伝えることができる。 【ベルソナ】 周囲の対応と自分の欲求が解離していると感じているが、勇気が出ず周囲に伝えることが難しい糖尿病患者さん	
解決策	【調査実績】 -2型糖尿病患者さん2名 -1型糖尿病患者さん2名 -その他の糖尿病患者さん1名 -徳島市立南高の生徒237名にアンケート調査 -糖尿病教室に参加	
課題	【調査実績】 -2型糖尿病患者さん2名 -1型糖尿病患者さん2名 -その他の糖尿病患者さん1名 -徳島市立南高の生徒237名にアンケート調査 -糖尿病教室に参加	



WKC Forum

実施概要

主催：WHO健康開発総合研究センター
(WHO神戸センター;WKC)
協力：inochi WAKAZO Project、
大阪大学国際保健・地域医療研究UNIT
日程：2025年8月24日
場所：WHO神戸センターオフィス／オンライン
目的：青少年の国際感覚醸成
テーマ：Health for All: Time for Action- From Youth Awareness to Hopeful Futures-
紛争や気候変動、健康格差が私たちの健康を脅かす中、国際協力の再認識と実装を目指しました。
誰もが等しく健康を享受できる未来へ向けて、講義や議論を通じ知見を共有し、共に歩み出す
第一歩となりました。



第一部

基調講演

「Every Life Matters: The Path to Peace and Health」

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT Fund) の
國井修先生にご登壇いただきました。先生のご経歴を通じて、
これからの国際保健を担う若者への力強いメッセージを
いただきました。



第二部

分科会

「Connecting yourself and the world ～健康の公平性を見つめる～」

Health Equity (健康の公平性)において重要とされる6つのテーマ
(気候変動、NCDs、母子保健、人道危機、感染症、国際協力)について、
WKCサマースクール生と運営学生が専門家のご指導のもと作成した
発表をもとに、少人数で議論を行いました。



第三部

パネルディスカッション

「From awareness to action: building hope in a turbulent world」

学生と国際保健分野でご活躍の専門家が対談し、分科会での議論を
さらに深めました。世代を超えて国際保健のビジョンや熱い思いを共有
しました。



手交式

フォーラム運営学生が半年間の企画・運営を通して得た学びと願いを、
希望ある未来を築くための若者へのメッセージとして提言書に取りま
とめ、WHO神戸センターおよび神戸グループに提出しました。下記のリン
クより、ぜひご一読ください。

提言書「Toward Hopeful Futures; Voices, Actions, and Pro-
posals by and for Youth Health and Dignity」



日本語



English



WAKAZOは、全国の医療系の大学生を中心に構成された学生団体です。
「誰もがいのちを守りあう新たな未来社会」の実現に必要な互助の考え方を
「inochiのペイフォワード」と名づけ、様々な活動を展開しています。
若者を中心とした互助の普及と、いのちを大切にす未来社会モデルを提案しています。

WAKAZO's Mission

誰もがいのちを守り合う、新たな未来を創造する。

Life Data Donation

企業や研究所と連携し、人々の生活で得られるヘルスケアデータの活用のため、大阪にて開催された、SantaParadeOsaka等のイベントにてヘルスケアデータの収集・研究を行っています。

LASTWORDS

人生最期に遺したい言葉を問い、これからの人生、いのちをどのように自分自身が生きていきたいかをWell BeingとWell Dyingの観点から見つめ、共有し、影響させ合う企画を行っています。

いのちの対話

いのちの対話では、「死生観」や「医療の未来」をテーマに、現代から未来社会における「いのち」について語り合います。

WAKAZO代表挨拶

WAKAZOは、2016年に大阪・関西万博に向けて生まれた、全国の大学生がつくるプロジェクトです。テーマは「誰もがいのちを守りあう新しい未来社会をつくること」。私たちは、誰かのいのちを思って行動することを「inochiのペイフォワード」と名付け、その輪を広げてきました。

2025年の万博では2度の出展を行い、延べ2万5千人以上の人々と“いのち”について語り合う機会をつくりました。2026年には発足10周年を迎え、「人生最期に遺したい言葉」を考える「LASTWORDS」プロジェクトを軸に、次の10年に向けた新たな挑戦を始めます。

未来は人の思いから動き出します。いのちを思い行動する仲間とともに、私たちは本気で未来をつくりま



WAKAZO代表
吉松 和

inochiのペイフォワードWeek Presented by 中外製薬

 ロシュグループ

2025年6月26日から6月30日までの5日間にわたり開催された「inochiのペイフォワードWeek ~Well-being for Well-dying~ Presented by 中外製薬」には、延べ15,000人以上の来場者にご参加いただきました。

本イベントのテーマは「いのちのペイフォワード」。その実践として掲げたのが、「Well-being for Well-dying」—より良く生きるために、より良い死を考えるという視点です。

現代社会では「Well-being (ウェルビーイング)」、すなわち“より良く生きる”という概念が注目される一方で、「死」を見つめる機会は多くありません。本イベントでは、「死」を考えることを通して「生」をより深く捉え、「良き死」に向けた「良き生」を探る体験の場を提供しました。また、私たちはこの取り組みの根底にある「互助の精神」に焦点を当てました。

保険制度、献血、臓器提供など、私たちの身の周りにはすでに多くの“支え合い”の仕組みが存在しています。

「お互いがお互いのいのちを想い、誰かのために行動する」——それこそが、私たちが提唱する「inochiのペイフォワード」です。



詳しくはこちらのQRコードをご覧ください。

死をたずね、いのちを問う



2025年9月8日から9月14日までの7日間、大阪・関西万博 関西パビリオン 京都府ゾーンICHI-ZA KYOTOにて展示企画「死をたずね、いのちを問う」を出展いたしました。

出展期間中は、約12,000人の皆様にご来場いただき、多くの方々にご参加いただきました。

本展示では、来場者の皆様に「人生最期に遺したい言葉」を問かけるプログラム「LASTWORDS」を体験していただきました。参加者が自身の言葉を「いのちの木」にドネーションすることで、「いのち」を象徴的に表現する試みを行いました。

本企画は、アステラス製薬株式会社、京都府総合政策環境万博・地域交流課、TOPPAN株式会社、および瓜生原葉子先生をはじめとする多くの皆様のご助言とご支援により実現いたしました。

決算報告

2026年1月16日

一般社団法人inochi未来プロジェクト

inochi WAKAZO Forum 2025 収支報告書

<収入>

	項目	単価	数量	金額	合計金額
協賛金	協賛金(複数協賛社合計)	3,687,575	1	3,687,575	6,345,256
寄付金	寄付金(個人・団体合計)	2,657,681	1	2,657,681	
収入合計				6,345,256	6,345,256

<支出>

	項目	単価	数量	金額	合計金額
活動費	i-GIP(inochi Gakusei Innovators' Program)活動費	2,224,813	1	2,224,813	2,224,813
会場費	会場・設備使用料	75,000	1	75,000	75,000
協力費	運営・演出関連費	568,809	1	568,809	1,210,246
	出演者関連	479,805	1	479,805	
	諸経費	161,632	1	161,632	
事務局費	事務局運営費	2,835,197	1	2,835,197	2,835,197
支出合計				6,345,256	6,345,256

※消費税別途

サポーターの皆さま (敬称略、順不同)

奥田純平 井野宝美 掛水由香里 岸脇和楽 岩井真規子 岩谷祥子 岩崎比良志
 鬼塚結 山北典子 松田幸大 上田利加子 森松優子 森真理子 川崎華英
 増田葉子 大西里緒 中野美幸 掛水由香里 織田暖子

塩谷晃仁 吉弘典子

永井志乃 奥平智之 中川尚美

岡 充栄 丸山あきら 森口和明 大呂佐智

井上咲来

折居麻綾 平松伶彩 西田一晃 武久敬洋 小坂真琴 森重智 八木雅和
 福嶋佳菜子 SotaKuno 塩山泰誠 塩田悠人 横山夏季 沖林拓実 河野由佳莉
 宮井秀彬 高村治輝 黒松俊吾 黒木平 山田達也 山田敦也 秋山怜央
 重村大新 水越康平 杉昌樹 西川登偉 大谷香澄 大塚勇輝 大辻允人
 大里悠輝 池尻達紀 池内善宣 中原楊 中村多伽 天野将明 田村奈都海
 林準也

共催・協賛・後援

私たち学生の活動は、支援してくださる皆様からのご協力で成り立っています。
この場を借りて御礼申し上げます。

inochi WAKAZO Forum 共催

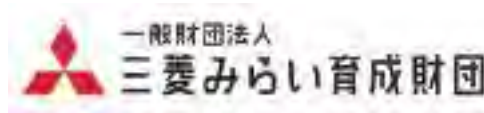
Nakanoshima Cross

協賛

【Donation Partner】



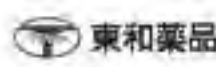
【i-GIP Partner】



【Silver Sponsors】



【Bronze Sponsors】



【Friends Sponsors】



後援

文部科学省
公益社団法人 日本糖尿病協会
公益社団法人 関西経済連合会
大阪商工会議所
一般社団法人 大阪府医師会
公益社団法人 東京都医師会
日本運動器科学会
大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ
公益財団法人 長寿科学振興財団
一般社団法人 日本バイオデザイン学会

一般社団法人 夢洲新産業・都市創造機構
一般社団法人 健康医療クロスイノベーションラボ
関西SDGsプラットフォーム大学分科会
一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会
一般社団法人 日本糖尿病合併症学会
大阪公立大学 観光産業戦略研究所
独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ) 大阪本部
大阪大学 大学院医学系研究科・医学部附属病院産学連携・
クロスイノベーションイニシアティブ

(12/20時点)

Annual Report 2025

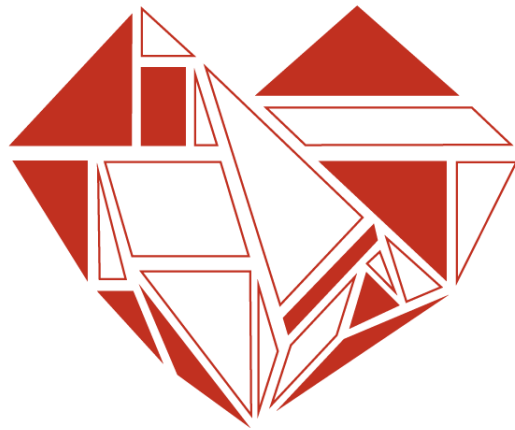
inochi WAKAZO Project

2026年1月

inochi WAKAZO Project

一般社団法人 inochi 未来プロジェクト

<https://inochi-wakazo.org/>



inochi WAKAZO Project